

都市のイメージづくりと情報発信力の 強化についての研究

平成 26 年 3 月

八戸市都市研究検討会

都市のイメージづくりと情報発信力についての研究プロジェクトチーム

目 次

はじめに	1
第1章 シティプロモーションとは何か	2
第2章 八戸市のイメージの検討	3
I 産業	
1 人口動態	
2 農林業	
3 漁業	
4 製造業	
5 八戸市における産業の一断面	
6 商業	
7 中心街の現状	
8 建設産業の展望	
II (生活)文化	
1 八戸の文化イメージの検討	
(1) 地域資源の抽出	
(2) 現状把握／SWOT 分析	
(3) 八戸市における学生の流出入傾向	
III 観光	
第3章 八戸市のシティプロモーションの方向性	33
I 八戸市の都市イメージ	
(1) 八戸市の都市イメージとは？	
(2) BLUE PORT HACHINOHE プロジェクト	
(3) プロジェクトの展開	
II 産業	
1 プロモーションプロジェクト	
III (生活)文化	
1 「自称 八戸大使」の創出	
2 プロモーションプロジェクト	
IV 観光	
提言1. 観光資源に対する客観的データの取得について	
提言2. 外国人観光客呼び込みのために	
提言3. シティプロモーション推進組織体について	
おわりに	51
参考資料	52

はじめに

本稿は、「都市のイメージづくりと情報発信力の強化に関する研究」の最終報告である。

後述するように、これまで 24 万人を維持してきた八戸市の人口は減少の兆しを見せ始めた。東日本大震災による各方面への影響もあり、地域づくりの先行きは不透明なものとなっている。このような時代背景のもとで、「住みたい、住み続けたいまち、八戸」を創造するという課題が存在する。

本報告では、第一に、シティプロモーションとは何か、ということについて先行研究に沿って検討し、八戸市のシティプロモーションの戦略を提起する。第二に、産業や(生活)文化等について八戸市のイメージを検討する。第三に、新たな都市イメージを提起し、研究テーマに関する「提言」を行う。

第1章 シティプロモーションとは何か

一般的には、シティプロモーションとは、「地域を持続的に発展させるために、地域の魅力を地域内外に効果的に訴求し、それにより人材、物財、資金、情報など資源を地域内部で活用していくこと」と定義される（河井孝仁[2009]）。個別の都市を見ると、例えば、静岡県浜松市では「地域の魅力を創り出し、それを国内外に発信し、都市ブランド力を高め、「人」、「もの」、「情報」が活発に行きかう、元気で活力ある都市を創る活動」とシティプロモーションを定義している。

本研究では、八戸市のシティプロモーションを歴史や現状を踏まえて以下のように定義する。

「海のまち、匠のまち、観るまちとしての八戸市のブランド力を高め、地域内外に情報を発信し、住みたい・住み続けたいまち、八戸を創造する活動」と定義する。ここで「海のまち、匠のまち、観るまち」とは、八戸市が海から開け、新産業都市指定により「工業（ものづくり）のまち」として発展し、現在は「観光都市」としても発展を探っているという意味を持つ。

以上のような「まちづくり」により、①人口規模を維持することを第一の戦略とする。②外貨（ここでは外国のお金のみならず、日本の他地域のお金を視野に入れたものとする）を獲得することを第二の戦略目標とする。そして、「我が国の情報発信基地として多くの人やマスメディアが集積し多大な影響力がある」（浜松市「平成25年度浜松市シティプロモーション推進方針」）首都圏及び東北圏域を主たるターゲットエリアと定める。外国人旅行者に対する利便性及びアメニティを高める努力を行う。

発信するコンテンツとしては、当面、「産業」「(生活)文化」「観光」の3分野とする。

第2章 八戸市のイメージの検討

ここでは、「産業」「(生活)文化」「観光」の3カテゴリーにおいて、八戸市のイメージを検討する。

I 産業

ここでは、人口問題と地域経済の担い手である産業の現状を既存統計に基づいて叙述する（参考文献：八戸市都市研究検討会『産業連関分析と地域経済活性化へのアプローチ』平成22年9月、など）。

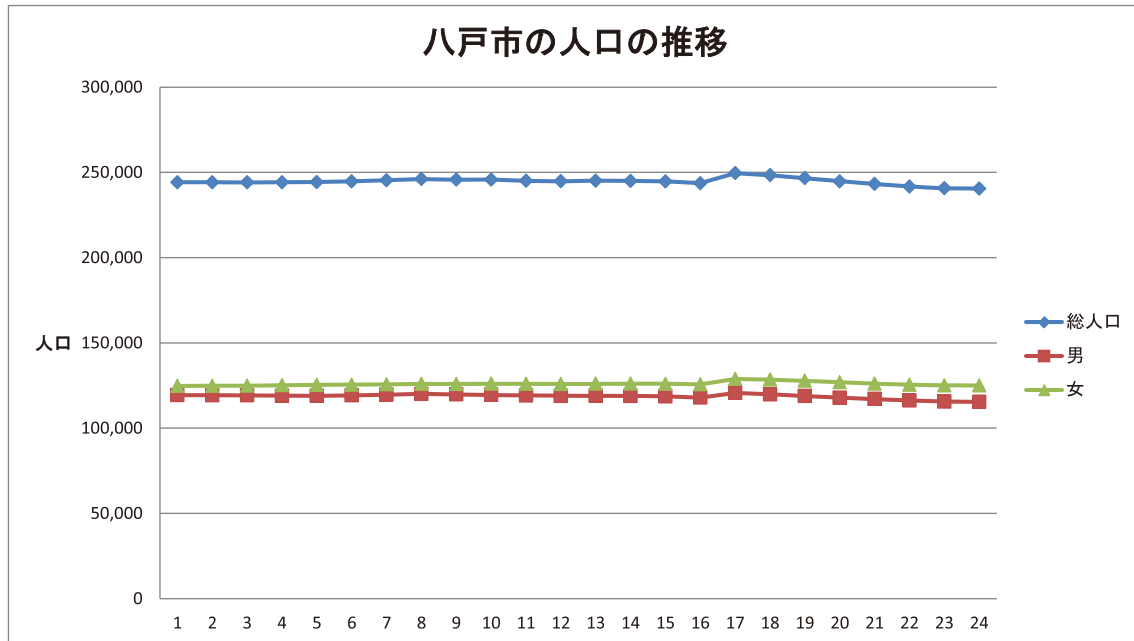
1 人口動態

平成22年度国勢調査によれば、八戸市の総人口は、23万7,615人であり、前回調査時(平成17年度)に比べて7,085人の減少となった。全世帯数は9万1,917世帯であり、このうち、一般世帯（(1)住居と生計を共にしている人々の集まり又は一戸を構えて住んでいる単身者。ただし、これらの世帯と住居を共にする単身の住み込みの雇人については、人数に関係なく雇主の世帯に含めた。(2)上記の世帯と住居を共にし、別に生計を維持している間借りの単身者又は下宿屋などに下宿している単身者(3)会社・団体・商店・官公庁などの寄宿舍、独身寮などに居住している単身者）は9万1,726世帯である。一般世帯のうち、核家族世帯は5万2,773世帯、このうち夫婦のみ世帯は1万8,238世帯である。一般世帯のうち、単独(単身)世帯は2万5,504世帯であり、このうち65歳以上の高齢単身世帯は8,035世帯である。

図表 1-1 八戸市の人口の推移

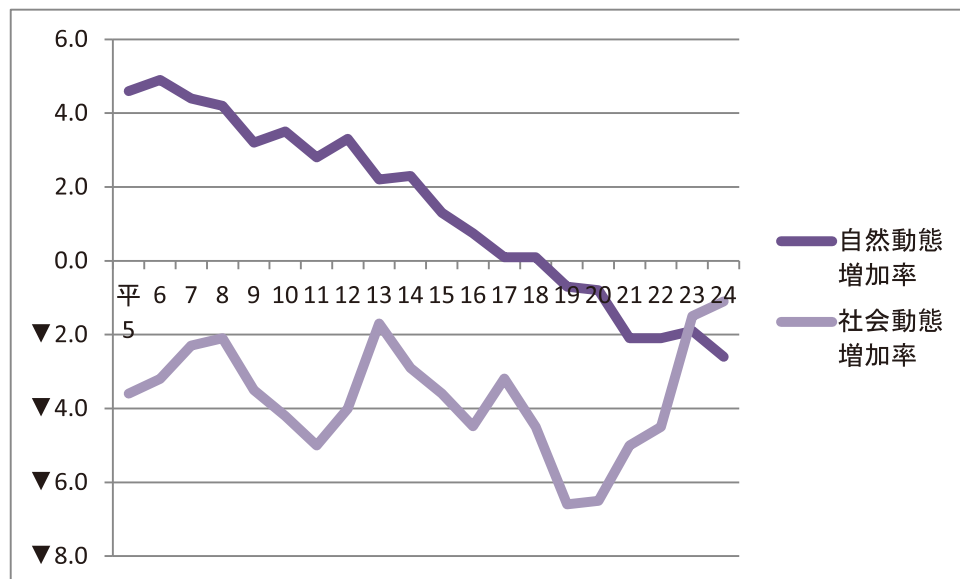
年	総人口	男	女
平元	244,178	119,364	124,814
2	244,181	119,319	124,862
3	244,133	119,226	124,907
4	244,210	119,021	125,189
5	244,353	119,006	125,347
6	244,712	119,229	125,483
7	245,366	119,651	125,715
8	246,076	120,087	125,989
9	245,691	119,794	125,897
10	245,792	119,656	126,136
11	245,073	119,081	125,992
12	244,770	118,930	125,840
13	245,096	119,014	126,082
14	245,002	118,897	126,105
15	244,715	118,679	126,036
16	243,649	117,909	125,740
17	249,530	120,682	128,848
18	248,349	119,837	128,512
19	246,629	118,832	127,797
20	244,738	117,836	126,902
21	243,278	117,148	126,130
22	241,712	116,174	125,538
23	240,712	115,616	125,096
24	240,478	115,439	125,039

図表 1-2 八戸市の人口の推移



図表 1-1 及び 1-2 は、平成元年から 24 年までの八戸市の人口の推移をみたものである。八戸市の人口が 24 万人となったのは昭和 56 年からであるが、それ以来、おおよそ 24 万人台を保っていることは評価に値する。しかし、減少傾向にあることは間違いない。今後の課題は交流人口を増加させつつそれをいかに定住人口に転換させていくかである。

図表 1-3 人口動態の推移



出典) 図表 1-1 から 1-3 まで八戸市市民課資料：平成 17 年以降は、旧南郷村と合併後の数値。平成 24 年以降は外国人を含む数値。

図表 1-3 は平成 5 年から 24 年までの人口動態(自然動態増加率＝出生率・死亡率、社会動態増加率＝転入率・転出率)である。

社会動態を表す転出率(転出人口÷総人口)、転入率(転入人口÷総人口)を比較すると(社会動態増加率)、一貫して転出率が上回っておりその差が拡大傾向にあったが、平成 19 年以降は縮小し、平成 24 年には 1.1%となった。平成 24 年度の転出先の都道府県別上位は、青森県(2,191 人)、東京都(887 人)、宮城県(780 人)、岩手県(728 人)の順であり、同じく転入先の上位は、青森県(2,790 人)、岩手県(727 人)、宮城県(573 人)、東京都(513 人)の順になっている。これにより、八戸市の社会移動は、大都市圏(東京圏・仙台圏)への転出入よりも隣県の岩手県、青森県が中心であることが分かる。

自然動態は、出生率(出生数÷総人口)が死亡率(死亡数÷総人口)を上回ってきたが(自然動態増加率)、平成 19 年より死亡率が上回るようになり、平成 24 年にはマイナス 2.6 ポイントに拡大した。少子化の影響を受けて、出生数は平成 7 年の 2,717 人から平成 24 年の 1,871 人と 846 人減少しているのに対して、死亡数は平成 7 年の 1,642 人から平成 24 年の 2,497 人と 855 人増加している。全国的な少子高齢化の流れは八戸市にも当てはまり、今後死亡率が出生率を上回ることが常態化することが予想される。

2 農林業

八戸市の農業振興地域の総面積は 23,977ha であり、そのうち、農用地区域は 5,067ha であり、都市近郊型農業が展開されている。旧八戸市地域ではながいも、にんにく、ねぎ、ピーマンなどの露地野菜、水田転作によるイチゴ、大豆、トマト、きゅうりなどの施設園芸野菜、果樹、畜産など集団的生産が展開されている。南郷区では、葉タバコ栽培のほか、観光農業としてそば、さくらんぼ、ブルーベリーなどの果樹生産などに取り組んでいる。

林業では、森林面積(約 10,219ha)のうち、針葉樹の用材用で約 60%、残りは広葉樹の雑木である(以上、八戸市ホームページより。産業振興部農業振興課)

図表 2 専業兼業別農家戸数

年 別	農 家 数						
	総 数	自給的農家	計	専 業	農 家 第一種兼業	第二種兼業	
平成12	4,060	1,210	2,850	465	473	1,912	
平成17	3,558	1,302	2,256	475	323	1,460	
平成22	3,187	1,311	1,876	495	225	1,156	
販売農家…経営耕地面積が30a以上または調査期日前1年間における農産物販売額が50万以上の農家							
自給的農家…経営耕地面積が30a未満で、かつ、調査期日前1年間における農産物販売額が50万円未満の農家							
資料：広報統計課		注：平12年、22年は世界農林業センサス、平17年は農林業センサス結果。					
		注：各年2月1日現在。					
		注：旧南郷村との合計数値。					

図表 2 は、平成 12 年から 22 年までの農家戸数の推移である。総数は 873 戸減少している。自給的農家(経営耕地面積 30a 未満かつ農産物販売金額が年間 50 万円未満の農家)よりも販売農家(経営耕地面積 30a 以上または農産物販売金額が年間 50 万円以上の農家)の割合が高く、そのうち第二種兼業農家(世帯員のなかに兼業

従事者が1人以上おり、かつ兼業所得の方が農業所得よりも多い農家）が大勢を占めている。また平成17年度の「農林業センサス」によれば、販売農家における65歳以上の就業者の占める割合は52.8%となっており、高齢化が進んでいることがわかる。若手の後継者育成が鍵であり、「農業起業」を促進する仕組みづくりが求められる。

図表3は、農業就業者数の推移である。前述した農家戸数の減少に伴い、就業者の数も減少傾向である。八戸市においては、絶対数としては減少しているが、構成要素としては、平成17年度には「自営農業にだけ従事」の割合が平成7年度に比べ約4ポイント増加している。また旧南郷村においては、農業就業者に占める「自営農業にだけ従事」の割合は50%超となっている。「農業に兼業として従事」の中で、「主として自営農業に従事」の割合が平成17年度は12年度に比べ、40.7%増加している点が注目される。旧南郷村においても同様の傾向である。平成22年度からは販売農家の区分変更により比較ができないが、就業者総数は対17年度で、22.3%減少している。

図表3 農業就業者数

区分 年別	総数	総数			男			女		
		自営農業 だけに従事	農業と兼業に 従事 主として 自営農業に 従事	農業と兼業に 従事 主として 兼業に 従事	自営農業 だけに従事	農業と兼業に 従事 主として 自営農業に 従事	農業と兼業に 従事 主として 兼業に 従事	自営農業 だけに従事	農業と兼業に 従事 主として 自営農業に 従事	農業と兼業に 従事 主として 兼業に 従事
旧八戸市										
平12	6,717	3,374	304	3,039	1,347	151	1,948	2,027	153	1,091
17	4,784	2,443	428	1,913	978	249	1,211	1,465	179	702
旧南郷村										
平12	2,234	1,390	128	716	533	87	524	857	41	192
17	1,942	1,050	284	608	379	176	450	671	108	158
区分 年別	総数	総数			男			女		
		自営農業 が主	農業以外 の自営業 が主	農業以外 の自営業 が主	自営農業 が主	農業以外 の自営業 が主	農業以外 の自営業 が主	自営農業 が主	農業以外 の自営業 が主	農業以外 の自営業 が主
八戸市										
平22	5,257	2,822	2,278	157	1,387	1,359	106	1,435	919	51

資料：広報統計課

注：平12年・22年は世界農林業センサス、平17年は農林業センサス結果。各年2月1日現在。

注：販売農家における数値、平22年より区分が変更。

農業粗生産額は平成18年で、14,910百万円であり、品目構成としては、畜産56.7%、野菜16.6%、米9.3%、果実7.2%と過半が畜産であり、次いで野菜となっている（農林水産省統計部『生産農業所得統計』）。

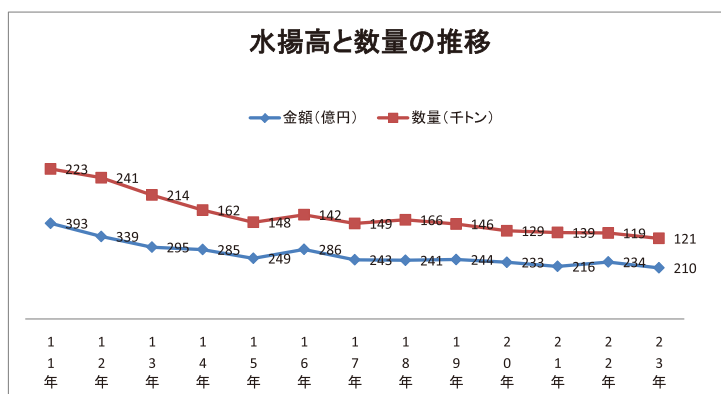
八戸市における林業従事者数は平成12年の36人をピークとして減少している（『国勢調査』各年版）。南郷区における産業振興のひとつのポイントは、林業の振興にある。環境問題の深刻化により、森林保全の果たす役割が重視されていることや、木工品の産業化は雇用と所得向上に役立ち、政策的に展開する意義があるものと思われる。

3 漁業

八戸市は「海から拓けたまち」として、「はま」の景気が地域経済にとっても重要なファクターとなっている。漁業（水産業）の振興・発展は喫緊の課題である。

八戸市の数量ベースの水揚げ高は平成 11 年 223 千トンであったものが、23 年には 121 千トンと 45.7%の減少となっている。金額ベースでは同期間で 393 億円から 210 億円と、46.6%の減少を示している（図表 4 参照。いずれも、八戸市産業振興部水産振興課調べ）。

図表 4 八戸港の水揚げ高



出典）八戸市産業振興部水産振興課（八戸市ホームページより）

平成 23 年の水揚げ数量 121,511 トンのうち、イカが 55,569 トン（45.7%）、サバが 47,293 トン（38.9%）、イワシが 3,547 トン（2.9%）と 3 魚種で 87.5%を占めている。水揚げ金額 210 億円のうち、イカが 128 億円（60.9%）、サバが 40 億円（19.0%）、イワシが 0.9 億円（0.4%）で、全体の 80.4%になっている。この 3 魚種が太宗となっているのである。

今後の課題としては、これら 3 魚種の生産を安定化させるとともに、加工による付加価値をさらにあげていくこと、第二に、3 魚種以外の水揚げをどの魚種で増加させていくかである。

4 製造業

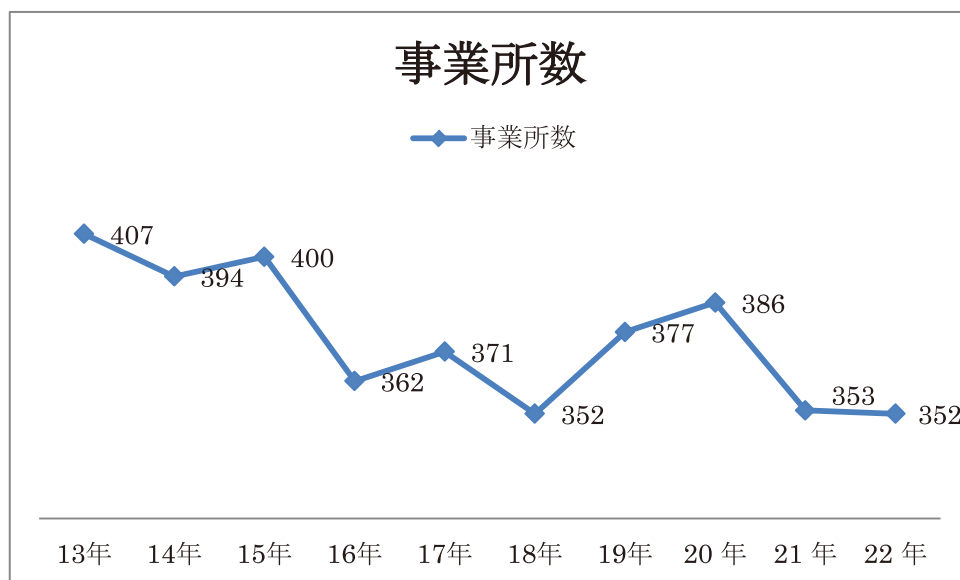
図表 5 は八戸市の製造業の事業所数の推移をみたものである。傾向的には減少していることがわかる。平成 22 年は 13 年に比べ、実数で 55 事業所、13.5%減少している。図表 5-1 は、平成 22 年度の全事業所の内訳をみたものである。全事業所 352 のうち、食料品製造業が 113(32.1%)、次いで金属製品 42(11.9%)、印刷(6.5%)、飲料・飼料（5.6%）というシェアになっている。

従業者数は（図表 6）、事業所数同様、減少傾向にある。18 年から 19 年にかけて 1,700 人ほど増えているが、この期間全体としては減少していることがわかる。平成 22 年は 13 年に比べ、実数で 1,050 人、7%の減少である。1 事業所あたりの従業者は平成 13 年 36.8 人に対し、22 年は 39.6 人と大きな変化はみられない。

製造品等出荷額（図表 7）は平成 20 年までは増加傾向にあったが、20 年から 21 年にかけて減少し、22 年は増加した。1 事業所あたりの出荷額等は平成 13 年の 104,251 万円から 22 年には 147,745 万円と約 1.4 倍、また、従業者 1 人当たりの

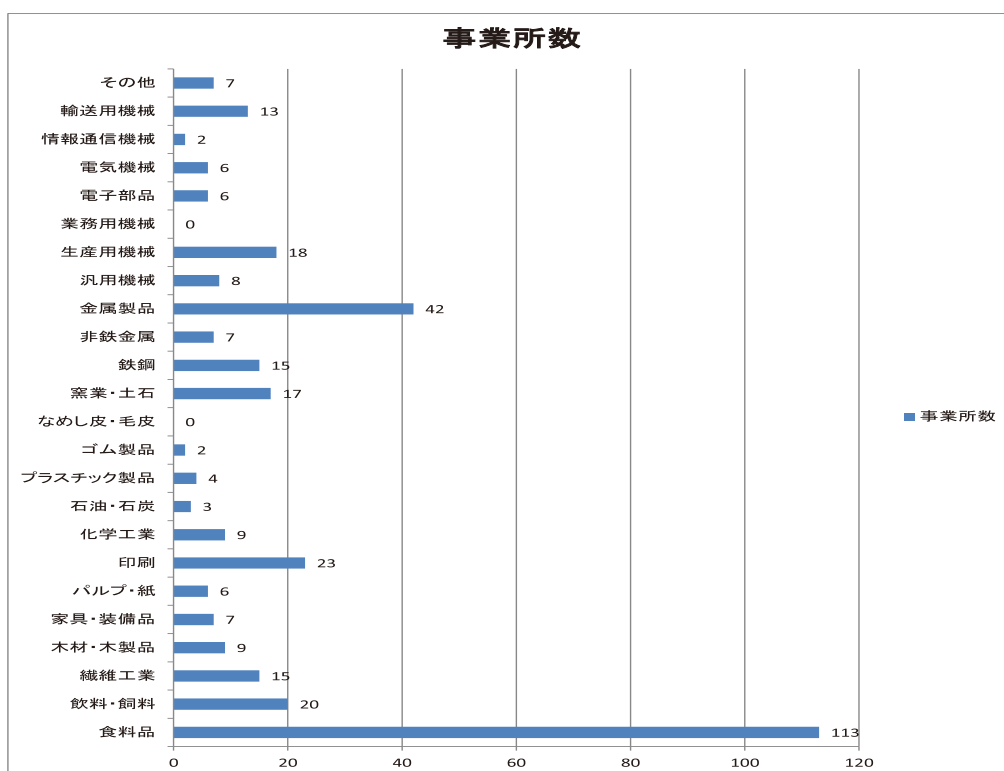
出荷額等は、同期間で 2,827 万円から 3,719 万円と約 31.6%増加しており、生産性の向上が伺われる。

図表 5



出典)『工業統計表』各年版(以下、図表 6・7 も同様)

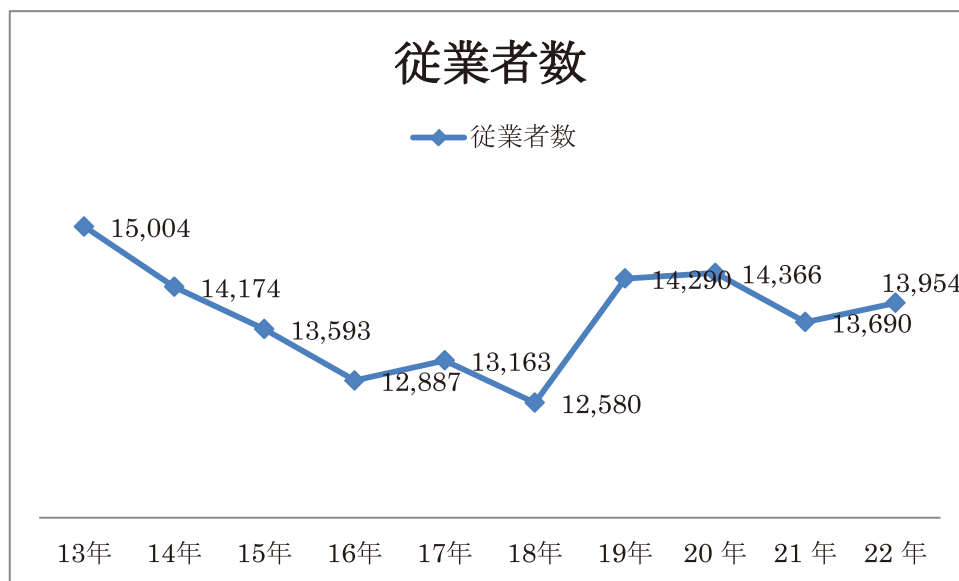
図表 5-1 事業所の内訳



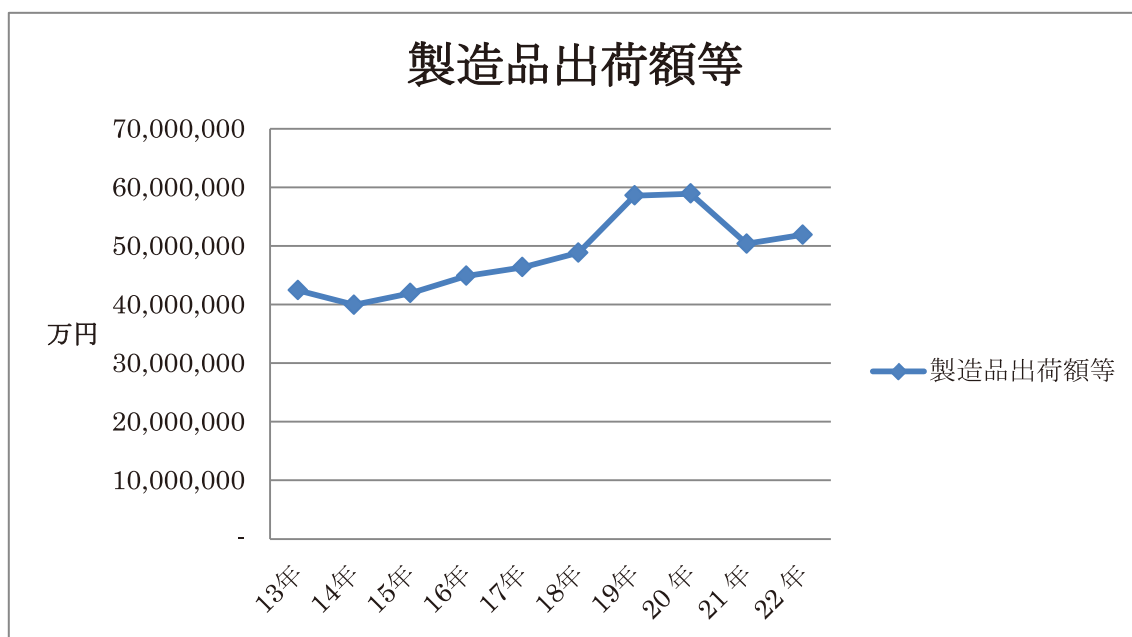
○市内に印刷業が多いわけ

かつて東北でも有数規模の印刷会社（八戸印刷荷札）が市内にはあった。その会社が倒産した際、会社の幹部クラスが独立して印刷会社を構えたことが関係しているようである。ちなみに取扱いとしては、商業印刷（チラシや広告）や企業伝票が多い。尚、三菱製紙の立地と印刷業との深いつながりはないようである。（市内印刷会社からのヒアリングより）

図表 6



図表 7



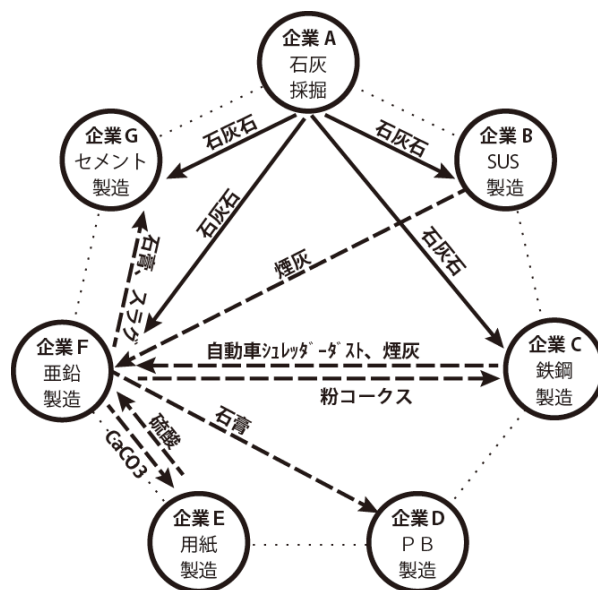
	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
製造品出荷額等	42,430,345	39,938,286	41,928,974	44,872,435	46,343,192	48,841,729	58,574,523	58,914,996	50,365,118	51,904,031

5 八戸市における産業の一断面

① 工場生態系

昭和 39 年新産業都市指定以降、八戸市には市内の工場地帯には、国内外でも有数の生産能力を誇る数多くの製造業による拠点化が進んだ。特に誘致により拠点を構えた工場群は当初は単独による生産を行っていたが、時間の経過とともに市内の工場同士による興味深い関係性を構築するようになる。

その特徴的なものが図のモデルに示したような、工場生産品はもとより、生産過程において排出される廃棄物を工場間で融通し再利用する工場生態系とでもいえるエコシステムが見事に構築されていることである。



② マリアージュ

ものづくりの過程において異業種間の協働も盛んにおこなわれている。その象徴的な事例が 2011 年に開館した八戸ポータルミュージアム「はっち」ひろばに展示されている「からくり獅子舞時計」である。これは、市内や国内外で活躍する木のからくり作家・高橋みのる氏が得意とする木のからくりと多摩川精機の機械制御技術が見事に出会ったこと（マリアージュ）により産み出された産物である。「からくり獅子舞時計」は毎時 0 分に獅子神楽の豪快な刃打ちを体感することが出来ることから、多くの市民や観光客が集まる光景を目にすることができる。



③ 八戸アーツ&クラフツ～手しごとの復権

アーツ・アンド・クラフツ運動 (Arts and Crafts Movement) は 19 世紀後半の英国を中心に起こったアートムーブメントである。ここで重要なのは、工場の大量生産により失われていた伝統的な手工業世界にデザイン（芸術）という概念を取り入れることにより手仕事（クラフト・ワーク）を復権させようと試みたことである。



アーツ・アンド・クラフツ運動を彷彿させる取り組みが八戸ポータルミュージアム‘はっち’において起きている。その代表例が市内の文具店が展開する‘カネイリミュージアムショップ’である。ここでは、市内はもちろん東北全域に今でも引き継がれているクラフト・ワークを発掘し、時にはリ・デザインされ新しい輝きを得た



数々のクラフトが展示・販売されている。「東北 Standard」と名付けられたこの取り組みは 19 世紀後半のアーツ・アンド・クラフツ運動を想起させるものである。

●八戸市における今後の産業展望～域内循環をいかに強化するか～

以上に見てきたように、八戸市における産業の一断面を切り取ったとき、三つの事例に共通して行きつく先はローカリティである。地域がいかにして個性を獲得・取り戻すかということは、災後社会における重要なテーマである。地域の組織や人が、生き生きと暮らすには、中央や大都市に極力依存することなく地域の独自性を高め、域内循環をいかに強化するかにある。そのためには、自分たちに出来ること（足りないこと）そして地域をより学び、その良さを知ること、他者への関心を高めることで自らを高め、様々なチャンスを得ていけるような取り組みがより活性化されることを進めていくことである。

○アーツ・アンド・クラフツ運動（Arts and Crafts Movement）

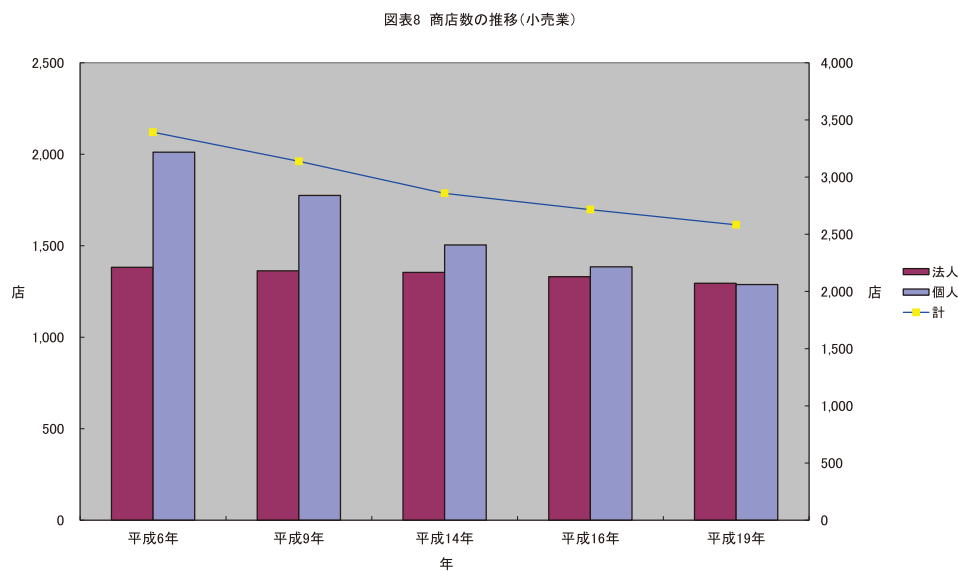
イギリスの詩人、思想家、デザイナーであるウィリアム・モリス（1834 年-1896 年）が主導したデザイン運動。美術工芸運動ともいう。ヴィクトリア朝の時代、産業革命の結果として大量生産による安価な、しかし粗悪な商品があふれていた。モリスはこうした状況を批判して、中世の手仕事に帰り、生活と芸術を統一することを主張した。モリス商会を設立し、装飾された書籍（ケルムスコット・プレス）やインテリア製品（壁紙や家具、ステンドグラス）などを製作した。

モリスの商会の製品自体は結局高価なものになってしまい、裕福な階層にしか使えなかったという批判もある。しかし、生活と芸術を一致させようとしたモリスの思想は各国にも大きな刺激を与え、アール・ヌーヴォー、ウィーン分離派、ユーゲント・シュティールなど各国の美術運動にその影響が見られる。

日本の柳宗悦もトルストイの近代芸術批判の影響から出発し、モリスの運動に共感を寄せ、1929 年、かつてモリスが活動していたケルムスコットを訪れた。柳の民芸運動は日用品の中に美（用の美）を見出そうとするもので日本独自のものであるが、アーツ・アンド・クラフツの影響も見られる。（Wikipedia より）

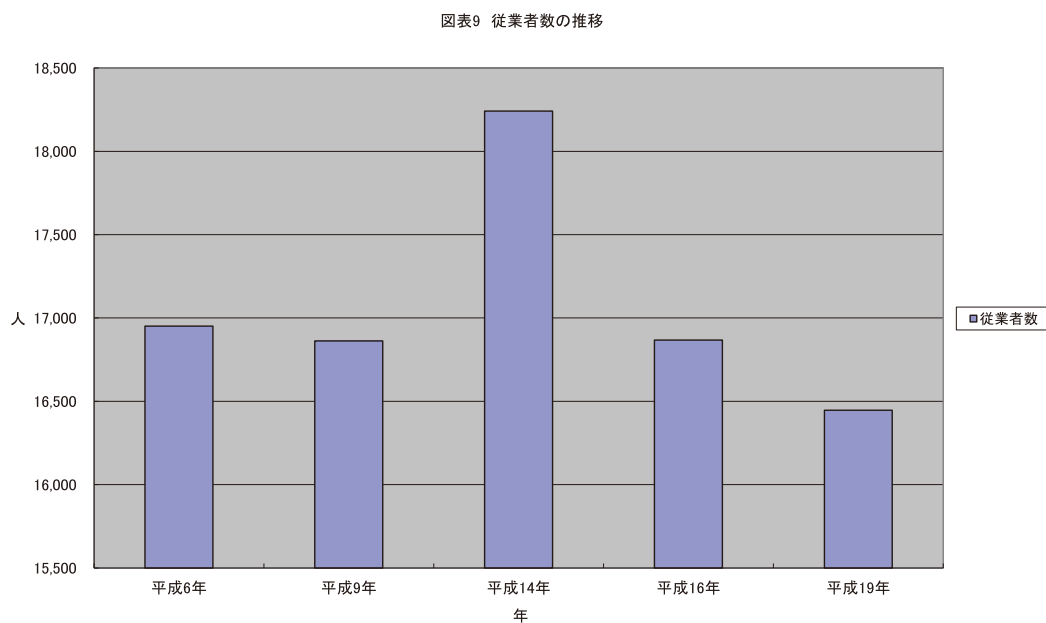
6 商業（小売業）

図表 8 は八戸市の小売業の商店数の推移である（ただし、平成 6 年から 16 年までは旧八戸市、19 年は南郷区と合算した数値である。以下同じ）。商店数は傾向的の減少傾向である。法人数はあまり減少しておらず、もっぱら個人商店が減少していることがわかる。広範囲にわたる各種商品やサービスを取り扱う大型店の影響が大きいことや、後継者難が原因であると思われる。

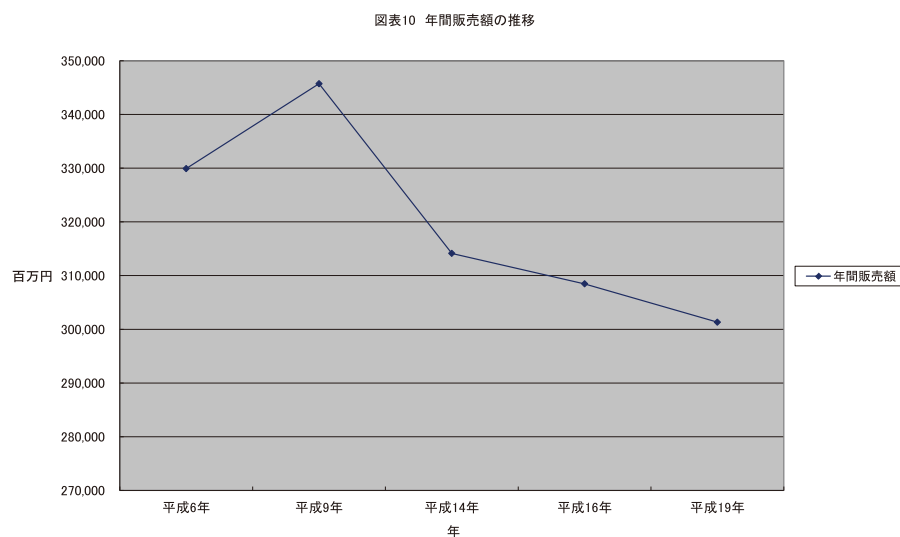


出典)『商業統計』各年版

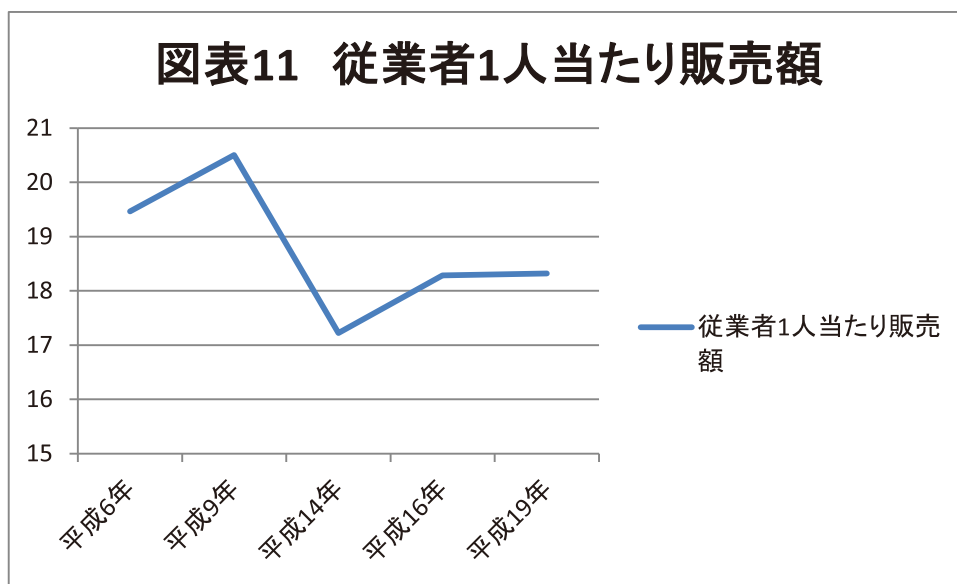
小売業の従業者数(図表 9)はこの期間では平成 14 年をピークに減少しつつある。



年間販売額については（図表 10）、平成 9 年をピークに減少している。これは全国的傾向でもある。



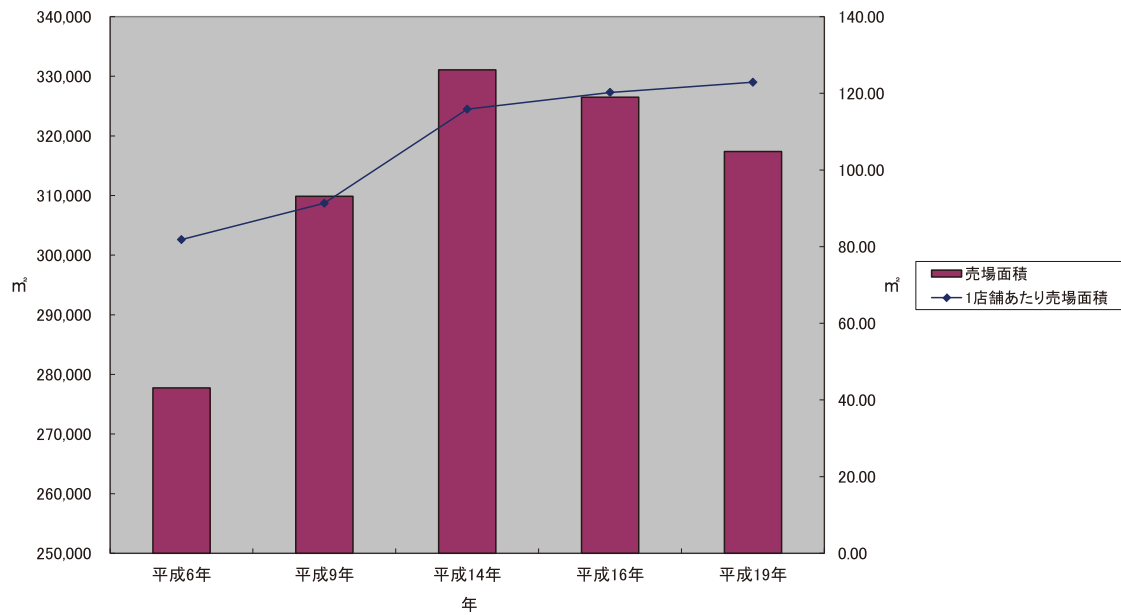
従業者 1 人当たり販売額（図表 11）は、平成 9 年がピークであるが、14 年からは徐々にではあるが増加しつつある。



注) 縦軸の単位は、百万円

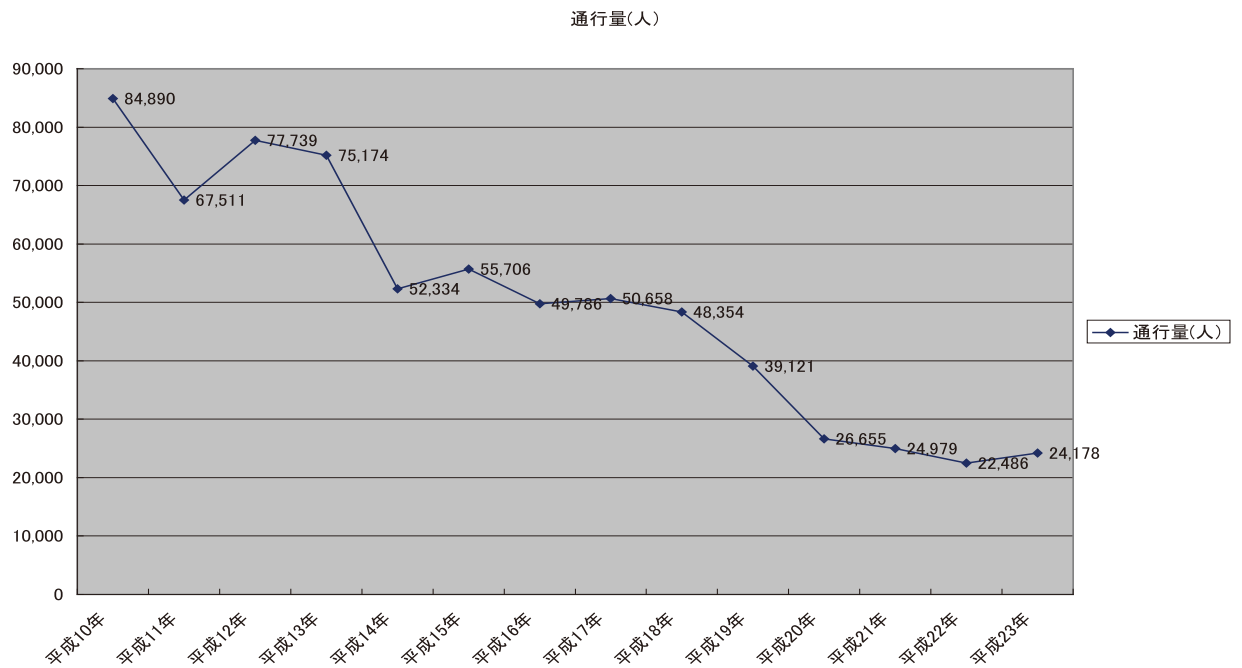
図表 12 は、売場面積と 1 店舗あたりの売場面積の推移である。大型化が進行していることが明らかである。

図表12 売場面積等



7 中心街の現状

(1) 来街者数の動向



出所)「中心市街地活性協議会 交通アクセス部会・花小路整備部会合同会議」資料
(平成 24 年 10 月 3 日開催) 8 地点 10 月第一日曜日の通行量

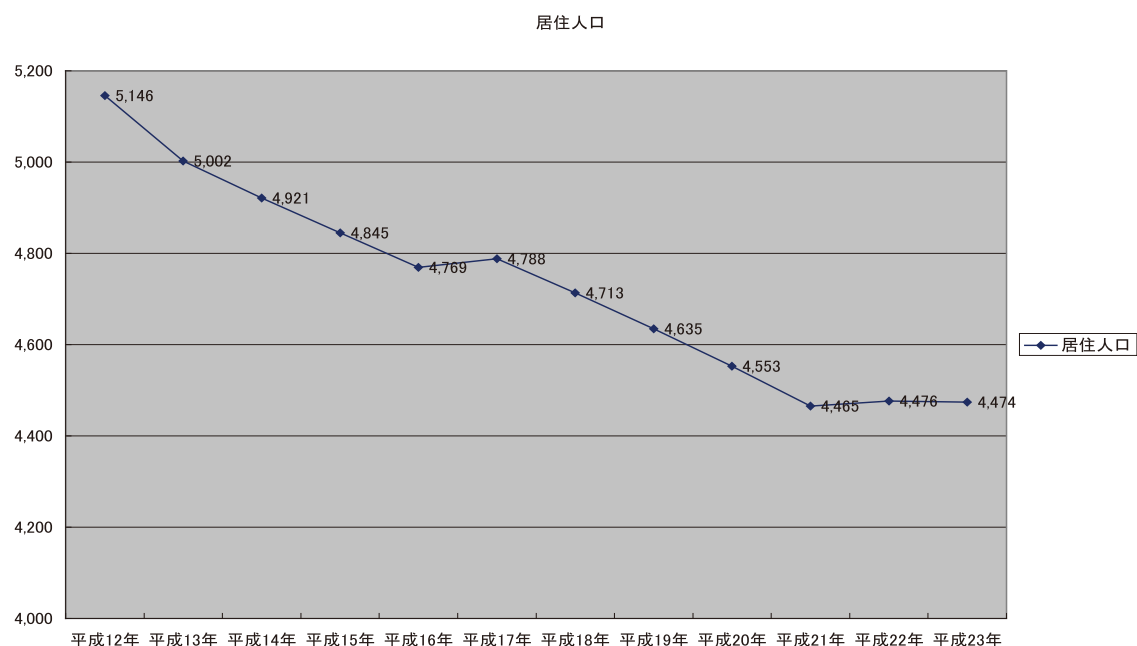
- 平成 7 年 4 月 イオン下田 SC 開店
- 平成 8 年 9 月 東北ニチイ閉店

- 平成 9 年 9 月 八戸市民病院移転
- 平成 10 年 3 月 ピアドゥ開店（ピアドゥ出店後、「中心商店街」に行く機会が減少した人の割合 24.8%「平成 10 年度 大型店影響調査」青森県）
- 平成 13 年 4 月 テアトル八戸閉館
- 平成 14 年 9 月 沼館ヤマダ電機・トイザラス開店
- 平成 15 年 2 月 イトーヨーカ堂八戸店閉店
- 平成 19 年 9 月 レック閉店

八戸中心街を訪れる大きな動機のひとつが、「買い物」「食事」（平成 14 年度調査）であることを考慮すると、商業環境の変化が来街者の量に影響を与える。また、上記「平成 10 年度 大型店影響調査」によれば、中心商店街で買い物する理由として、「商品の質がよい」（32.6%）に次いで、「他の用事のついで」（31.3%）となっており、中心街の「都市機能」が集客の大きな要素となっていることがわかる。商業環境・都市機能の変化が、大枠としては、通行量の減少に影響を与えているものと推察される。

平成 23 年から 24 年にかけて、通行量が増加傾向となった。「はっち」効果が一定の表れを見せている。

（２）中心街の居住人口



出所)「中心市街地活性協議会 交通アクセス部会・花小路整備部会合同会議」資料（平成 24 年 10 月 3 日開催）

上記の図から、中心街の居住人口は減少傾向にあったが、平成 21 年から若干の増加傾向にあることがわかる。

8 建設産業の展望

(1) 建設産業の役割

安全・安心で豊かな暮らしを確保する上で、また経済の活性化や発展を進める上で社会資本の整備は必須条件であり、ここで重要な役割を果たすのが建設産業である。一方、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、八戸地区にも大きな被害をもたらし、八戸市は平成 23 年 9 月 26 日に「八戸市復興計画」を、青森県は平成 23 年 12 月 21 日に「青森県復興ビジョン」を発表した。この中で示される「防災力の強化」や「災害に強い地域づくり」を具現化する担い手は建設産業である。特に八戸市は、東北新幹線・八戸高速道・八戸港・三沢飛行場など、北東北地域においては、唯一、陸・海・空の交通・物流のための機能が整っている地域であり、北東北地域の物流拠点・防災拠点として整備することは八戸市および北東北における地域の貢献と発展につながる。

我が国における建設投資は減少傾向にあり、建設産業の衰退は地域経済に大きな打撃を与えるが、建設産業は社会資本の整備を担い、地域経済の活性化や雇用を生み出す主要産業であり、継続的発展のための課題を明らかにしてこれらの解決にむけた努力が必要である。

(2) 青森県における建設産業の現状¹⁾

青森県における建設投資額は、平成 7 年度に 1 兆 1,549 億円とピークを迎えたが、平成 22 年度は 5,752 億円と半減した。県内総生産に対する建設投資の割合は、平成 7 年度の 29.7%に対して平成 21 年度は 16.1%と 4 割強減少したが、国内総生産に対する全国ベースの建設投資の割合は、平成 7 年度の 15.6%に対して、平成 21 年度は 9.1%であり、青森県における建設投資は全国ベースに比べてかなり高い。



図 1 青森県の建設投資¹⁾

しかしながら、道路整備において青森県は自動車交通への依存度が高いにもかかわらず、道路改良率は 60.9%であり、東北地方の中では福島県に次いで 2 番目に低

く、また青森市と八戸市は、人口 20 万人以上の都市が高規格道路で結ばれていない全国で唯一の区間である。

また、汚水処理人口普及率（下水道、農業集落排水施設等、合併処理浄化槽の普及人工の総人口に対する割合）は 73%と全国平均を下回り、東北地方では岩手県に次いで 2 番目に低い。

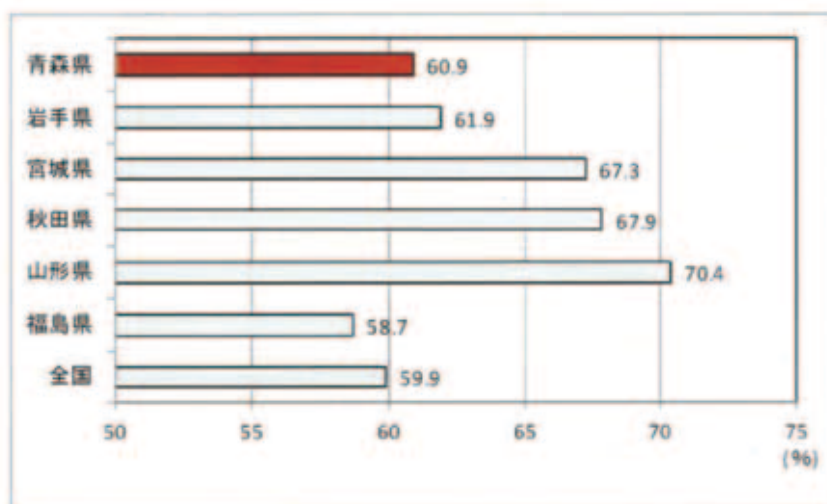


図 2 道路改良率 ¹⁾

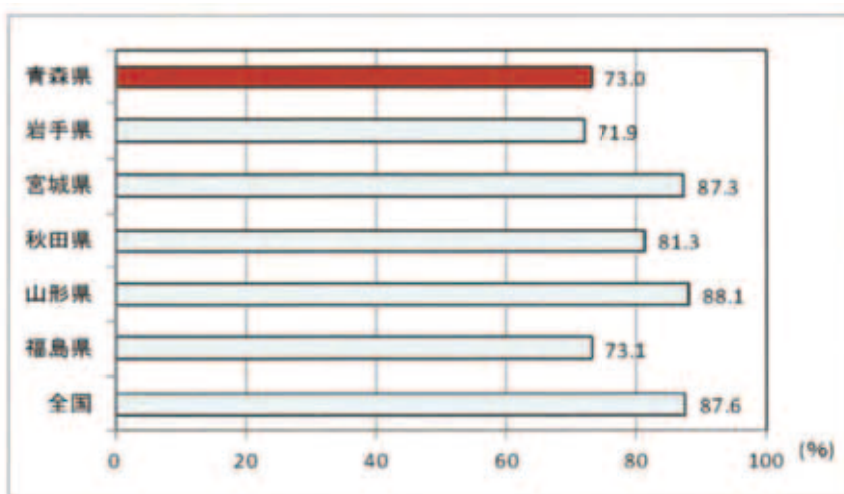


図 3 汚水処理人口普及率 ¹⁾

建設業就業者数は、平成 12 年度の約 9.5 万人をピークに、平成 22 年度では約 6.2 万人と 3 割以上減少した。就業者数全体に対する建設業就業者数の割合は、平成 12 年度の 13.3%に対して平成 22 年度では 9.7%である。平成 22 年度の全国の建設業就業者数は 447.4 万人であり、建設業就業者数の割合は 7.5%であるが、青森県の建設就業者数は全国に比べて多い。しかし、平成 22 年度における 50 歳以上の就業

者数は 47.8%と全国平均 43.9%より高く、高齢化が進んでいる。



図 4 青森県における建設業の就業者数¹⁾

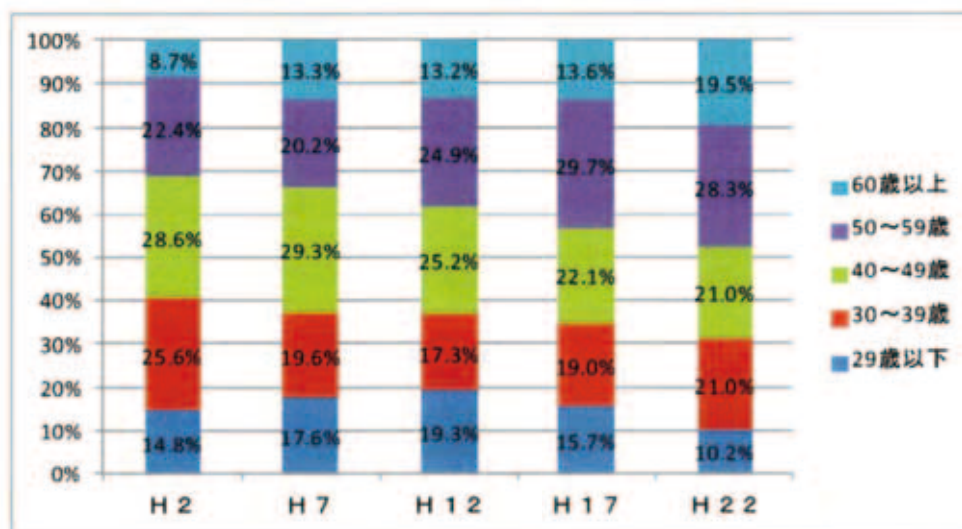
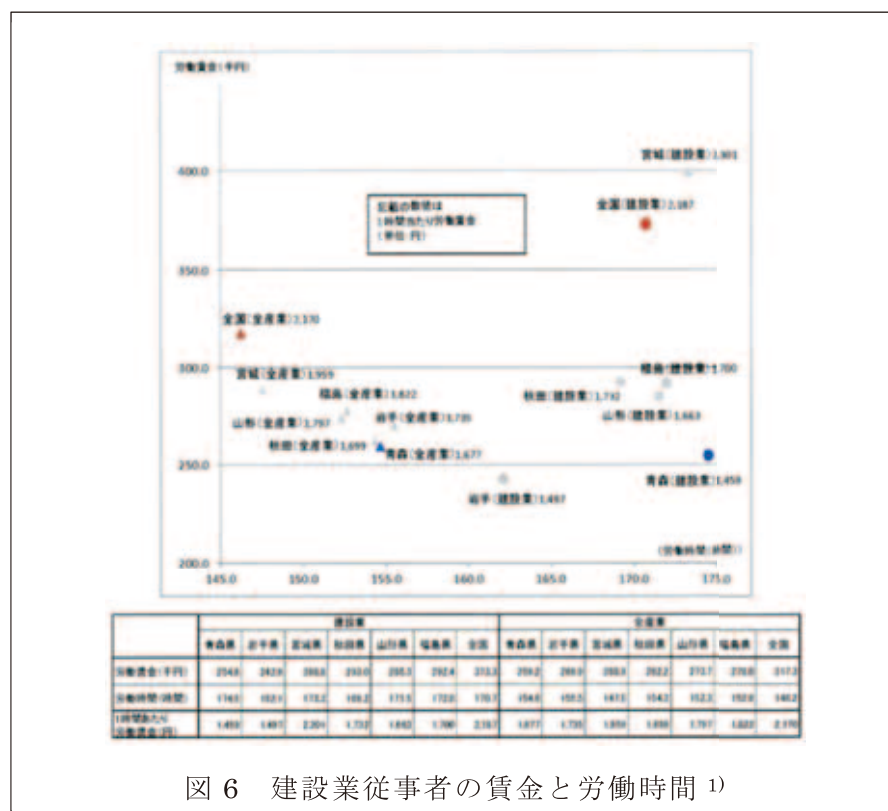


図 5 青森県における年齢別建設就業者数構成比¹⁾

建設業における労働賃金は、平成 22 年度において 255 千円／月であるが、青森県の全産業平均 259 千円／月を下回っており、全国の建設業の労働賃金 373 千円／月に比べると 7 割以下の水準となっている。一方で建設業の労働時間は全産業平均より約 10 時間長い。



青森県の建設企業のうち、平成 23 年度現在で経常黒字を出している企業割合は 7 割強であるが、経常黒字は従業員に対する低賃金や長時間労働、経営者の私財投入など、企業の身を切る取組の成果である（図 6）。

表 1 青森県における地域別黒字企業の割合（平成 23 年度）¹⁾

地域	黒字企業割合
東青地域	73.2%
中南地域	72.9%
三八地域	74.2%
西北地域	78.9%
上北地域	75.7%
下北地域	77.1%
青森県全体	75.1%

図 7 は、(社) 青森県建設業協会が会員に対して行ったアンケートの平成 22 年度の結果¹⁾である。一般管理費を考慮した工事の採算ラインは最終設計金額の 93%であるが、ダンピング対策の設定水準である 82%との乖離は大きく、一般管理費を捻出する余裕はない。ダンピング受注による労働者への賃金低下、発注金額積算の基準となる労務単価の低下、予定価格の低下等、負のスパイラルが生じることが懸念

され、発注者側である行政の健全なる建設業発展のための施策が期待される。

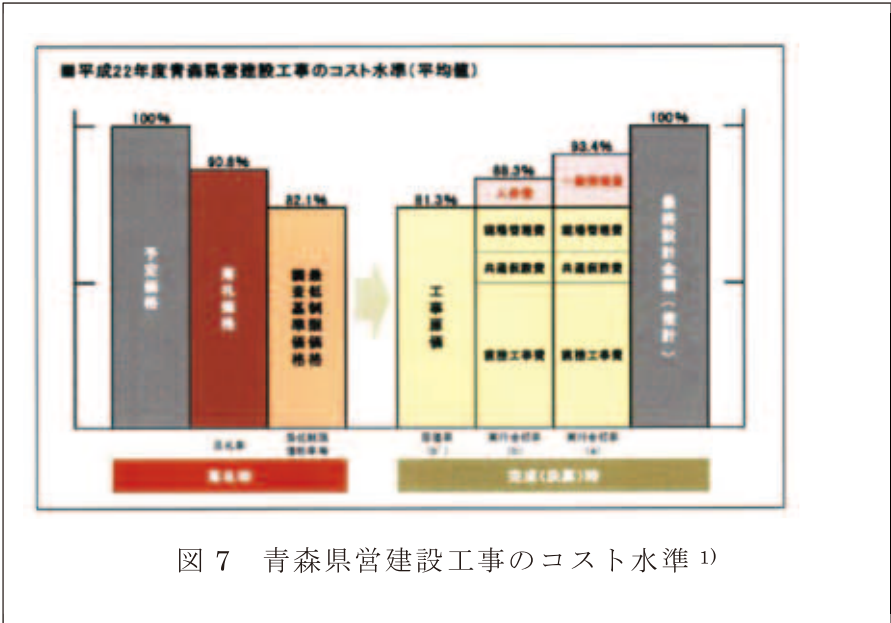


図 7 青森県営建設工事のコスト水準¹⁾

(3) 八戸市における建設産業の現状 2)

八戸市における市内総生産は、平成 18 年度で 8,548 億円であり、前年度の 8,364 億円に対して 2% 増となり、5 年連続の減少傾向に歯止めをかける形になった。建設業の総生産額は 461 億円であり、前年度の 420 億円に対して 10% 増となり、建設業においても 5 年連続の減少傾向をストップさせたが、最盛期である平成 12 年度の 919 億円と比較すると 50% の減少となり、依然として構造的不況のなかにある。

表 2 八戸市の産業別総生産 2)

産業別市内総生産(実績)									
項目・区分	八戸市 (百万円)								
年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
1 産業	812,842	807,007	837,632	808,192	769,868	762,003	745,517	740,537	747,816
農業	8,631	9,152	8,473	8,644	8,455	7,355	8,963	9,290	8,478
林業	637	807	717	1,654	795	280	658	804	537
水産業	17,272	21,773	18,212	17,979	14,785	12,925	14,731	12,569	11,817
鉱業	5,962	6,237	7,174	6,029	4,918	4,751	3,540	3,738	2,923
製造業	147,641	128,392	142,194	128,051	113,037	117,549	114,944	119,591	132,732
建設業	64,427	79,660	91,930	79,486	69,590	59,405	48,294	41,954	46,126
電気・ガス・水道業	23,378	24,312	23,608	22,289	21,420	21,817	22,177	20,166	21,132
卸売・小売業	152,326	141,974	155,578	157,289	145,981	144,406	136,366	136,089	130,047
金融・保険業	35,399	35,485	34,295	36,831	39,068	37,758	36,799	36,022	36,990
不動産業	93,452	92,868	92,864	95,857	96,049	95,925	96,377	97,848	96,621
運輸・通信業	94,278	93,444	83,857	77,584	80,436	82,489	86,365	89,534	83,612
サービス業	169,440	172,901	178,730	176,502	175,335	177,343	176,303	172,933	176,801
2 政府サービス生産	116,063	115,303	115,310	113,442	114,644	118,768	118,220	115,597	119,231
3 対家計民間非営利サービス生産者	18,321	17,653	15,848	15,570	16,731	16,570	17,454	17,503	21,340
4 小計	947,227	939,963	968,790	937,204	901,244	897,340	881,190	873,637	888,386
5 輸入品に課される税・関税	2,859	2,580	2,552	2,555	2,637	2,636	2,638	2,940	3,364
6 (控除)総資本形成に係る消費税	5,927	5,476	6,813	6,389	5,441	5,082	4,999	4,664	3,983
7 (控除)掃蕩利子等	28,982	28,371	30,546	34,803	36,846	35,912	33,396	35,452	32,900
8 市町村内総生産(4+5+6+7)	915,177	908,696	933,983	898,575	861,594	858,983	845,432	836,462	854,867

資料：青森県統計分析課資料

注：各数値四捨五入のため計が一致しないところがある

平成 15 年度以前は旧八戸市・田舎郷村全域の数値

国の数値は国内総生産(名目)の数値であり、総生産の数値は不具合を含まない

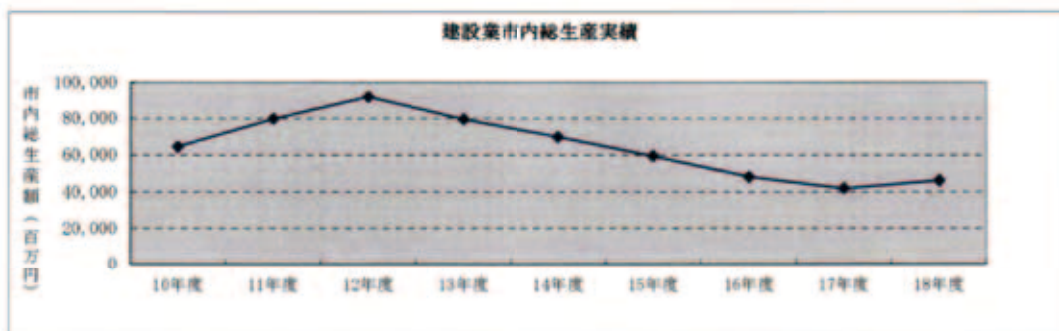


図 8 八戸市の建設業総生産の実績 2)

表 3 八戸市の産業別事業所数²⁾

産業別事業所数		(単位：事業所)						
産業		昭和53年	昭和56年	昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年
全産業総数		12,556	13,165	13,160	13,209	13,190	12,917	11,922
第1次産業		53	52	45	47	46	44	42
農 業								
林 業								
漁 業		53	52	45	47	46	44	42
第2次産業		1,610	1,733	1,461	1,747	1,816	1,721	1,517
鉱 業		10	10	10	7	7	10	7
建設業		743	852	811	900	1,049	1,069	944
製造業		857	871	840	840	760	642	566
第3次産業		10,826	11,322	11,393	11,355	11,260	11,067	10,277
電気・ガス・熱供給・水道業		24	17	14	13	11	12	12
運輸・通信業		237	256	285	312	363	390	366
卸売・小売業・飲食店・宿泊業		6,987	7,193	6,985	6,703	6,392	5,952	5,270
金融・保険業		191	214	231	227	263	256	233
不動産業		438	511	574	565	637	685	795
サービス業		2,949	3,131	3,304	3,535	3,684	3,772	3,601
公 務		67	58	61	60	68	85	86

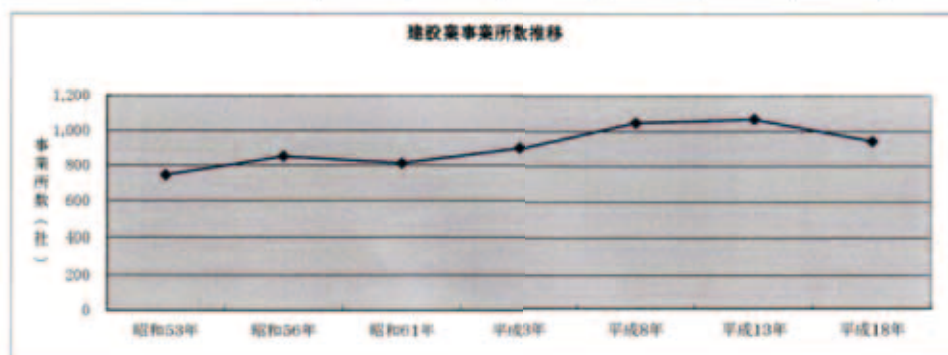


図 9 八戸市の建設事業数の推移²⁾

建設業従事者数は、平成8年には13,123人であったが、平成18年には9,227人（旧南郷村との合併後の数）と減少している。また、平成13年から平成18年までの従業者の減少率は全産業で9%であるが、第2次産業の減少率が高く、鉱業は32%と最も高く、次いで高いのは建設業24%、製造業17%である。

公共事業受注高は、平成19年度で130億円であり、前年度の161億円に対して19%の減少となり、民間新規受注高は31億円と前年度と同等であった。住宅着工数では平成19年度で1,329戸であり前年度1,455戸に対して7%の減少である。

表 4 八戸市の産業別従業者数 2)

産業別従業者数		(単位：人)						
産 業		昭和53年	昭和56年	昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年
全産業総数		101,752	109,049	108,538	118,794	125,964	121,576	110,601
第1次産業		1,719	1,589	1,537	1,542	1,218	1,199	1,002
農 業								
林 業		1,719	1,589	1,537	1,542	1,218	1,199	1,002
漁 業								
第2次産業		30,387	32,165	29,982	32,545	33,643	28,900	23,218
鉱 業		306	351	282	166	196	310	212
建 設 業		10,451	11,760	9,261	10,615	13,123	12,072	9,227
製 造 業		19,570	20,064	20,419	21,764	20,324	16,518	13,779
第3次産業		69,646	75,295	77,019	84,707	91,103	91,477	86,381
電気・ガス・熱供給・水道業		884	720	696	644	727	702	625
運輸・通信業		7,966	7,821	8,451	9,060	9,340	9,138	8,543
卸売・小売業・飲食店・宿泊業		31,681	35,076	33,692	35,483	37,809	37,221	33,882
金融・保険業		2,756	3,141	3,268	3,397	3,452	3,065	2,657
不動産業		847	1,233	1,176	1,100	1,425	1,506	1,624
サービス業		19,668	21,426	23,754	28,791	32,004	33,964	33,169
公 務		5,844	5,878	5,976	6,232	6,346	5,881	5,872

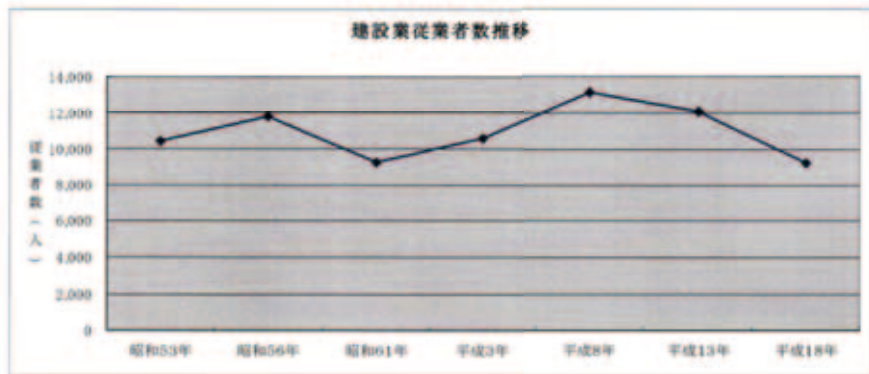


図 10 八戸市の建設従業者数の推移 2)

表 5 八戸市の主要経済指標 2)

八戸市内主要経済指標								
項目 年度	八戸市公共 事業予算 (億円)	公共工事 受注高 (百万円)	地元9社受注高		住 宅 建 設			
			民間新規 (百万円)	官・民残高 (百万円)	確認申請 (件)	着工戸数 (戸)	持ち家 (戸)	貸 家 (戸)
13年度	79	29,976	3,883	16,951	1,549	2,181	936	1,139
14年度	77	30,928	2,806	12,356	1,441	1,933	975	724
15年度	77	25,794	2,532	10,590	1,505	1,861	935	837
16年度	84	16,500	1,778	10,514	1,453	1,857	952	770
17年度	88	18,094	1,355	7,520	1,278	1,538	809	644
18年度	88	16,101	3,137	7,559	1,286	1,455	891	480
19年度	91	13,010	3,135	7,592	1,131	1,329	696	582

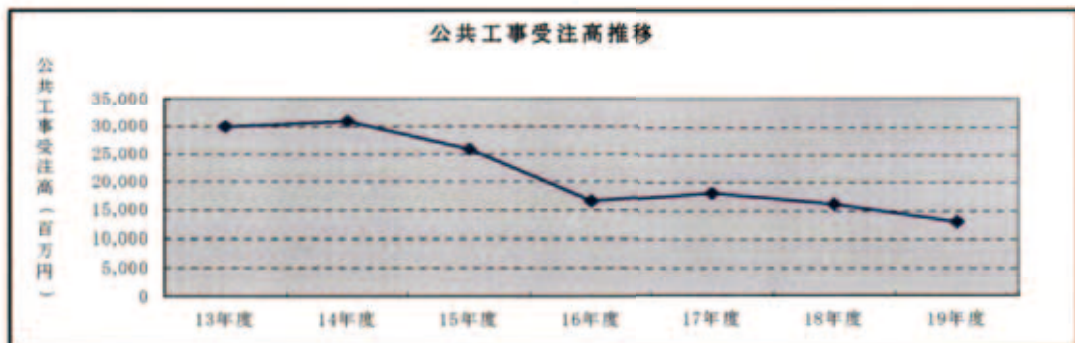


図 11 八戸市の公共工事受注高の推移 2)

(4) 社会資本ストックの維持更新^{1),3)}

高度経済成長期における建設ラッシュでは、限られた期間、限られた技術者と専門工事業者という条件のもと、より経済的に急ピッチで工事を進めなければならない時代であり、さらに建設構造物の主要材料であるコンクリートは、メンテナンスフリーで半永久的に供用できると考えられてきたため、構造物への耐久性の配慮が必ずしも設計・施工において十分ではなく、1980年代前半には塩害やアルカリ骨材反応などによる劣化事例が数多く報告された。これらはコンクリート構造物の早期劣化問題として社会問題にもなり、当時の建設構造物の品質や耐久性は必ずしも確保されている状況ではなかった。さらに、八戸市は寒冷地域にあり、冬季の寒冷気象がもたらす凍害は構造物を劣化・損傷させ、温暖な地域に比べて劣化環境は厳しい状況にある。

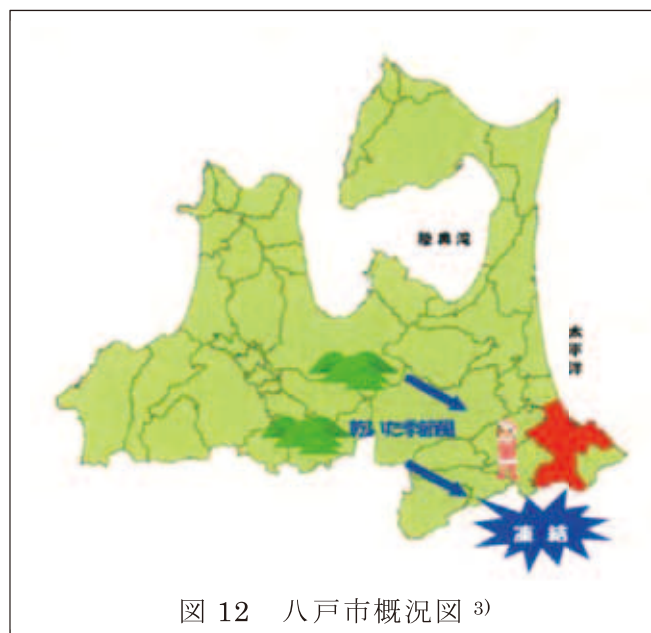


図 12 八戸市概況図³⁾

図 13 は、昭和 35 年（1960）以降の青森県の道路、港湾等の社会資本ストックの状況を示したものである。高度経済成長期（1955 年～1973 年）後半から建設ラッシュが急速に進み、竣工後 50 年を順次むかえる社会資本は高齢化時代に入り、今後急速に老朽化する。

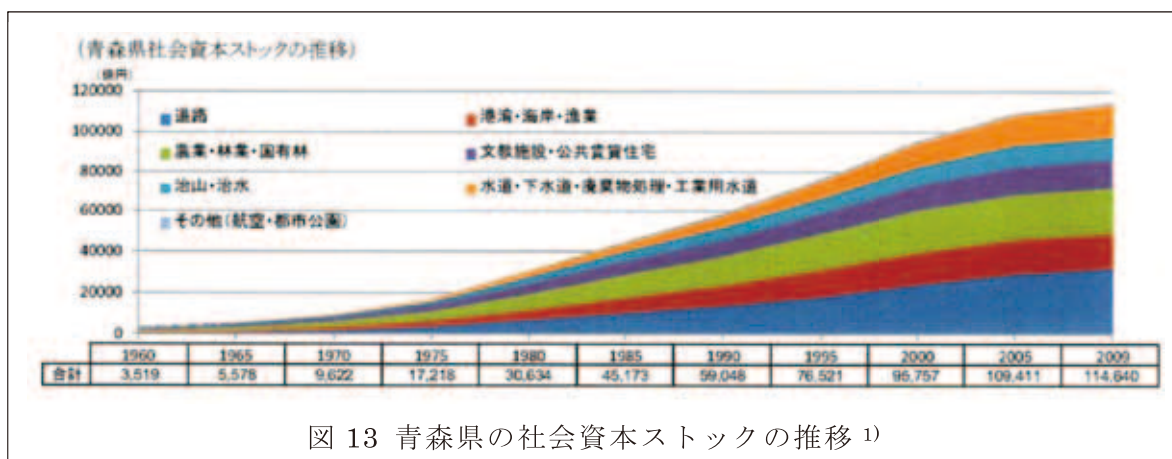


図 13 青森県社会資本ストックの推移¹⁾

「地域建設産業のあり方検討委員会（青森県）」報告書¹⁾では、これまでの建設工事完成工事高を分析し、住民のニーズに対応した公共施設の維持・更新や防災・減災のための新規公共工事が一層重要となることを踏まえ、今後想定される建設工事の完成工事高は「公共工事の維持・修繕完成工事高 10%増／年、公共工事の新設完成工事高 1%減／年」として、維持・修繕工事の増加に対応して推移するものと展望し、図 14 を示した。このシミュレーションで表れる 2,800 億円に相当する建設工事は、約 3,700 億円の経済波及効果をもたらし、約 37,000 人の雇用を生むと見込まれている。

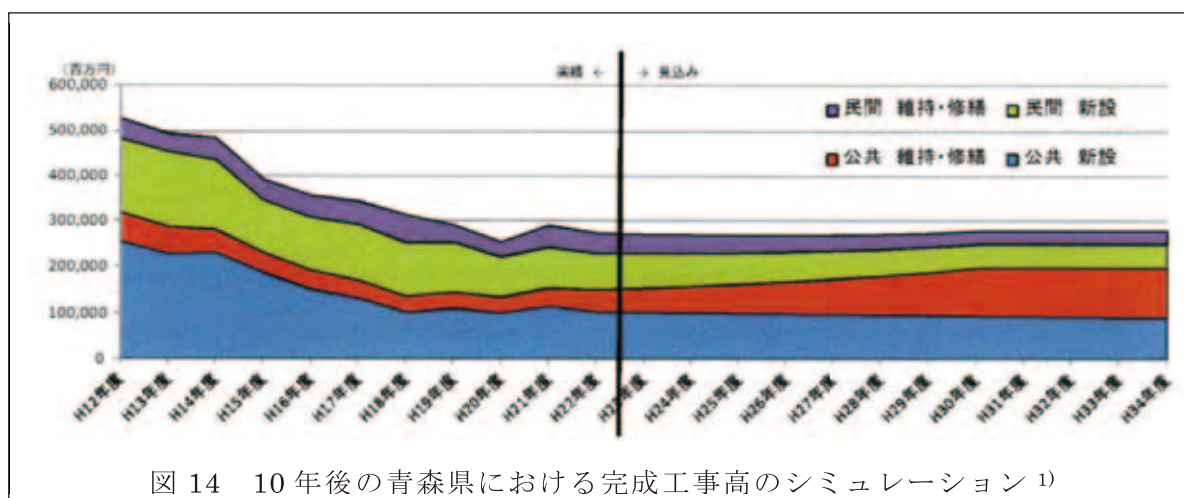


図 14 10 年後の青森県における完成工事高のシミュレーション¹⁾

国土交通省は、我が国の社会資本が今後 20 年で建設後 50 年以上経過する施設の割合が加速度的に高くなることから、今後の戦略的な維持管理・更新に向けて、本年を「社会資本メンテナンス元年」として位置づけた⁴⁾。

青森県（八戸市）も同様、竣工後 50 年をむかえる社会資本が今後において増加するため、計画的な維持管理を進めなければならず、特に橋梁の管理が重要である。青森県が管理している橋梁数は 2,275 橋であり、このうち三八地域は 189 橋である。

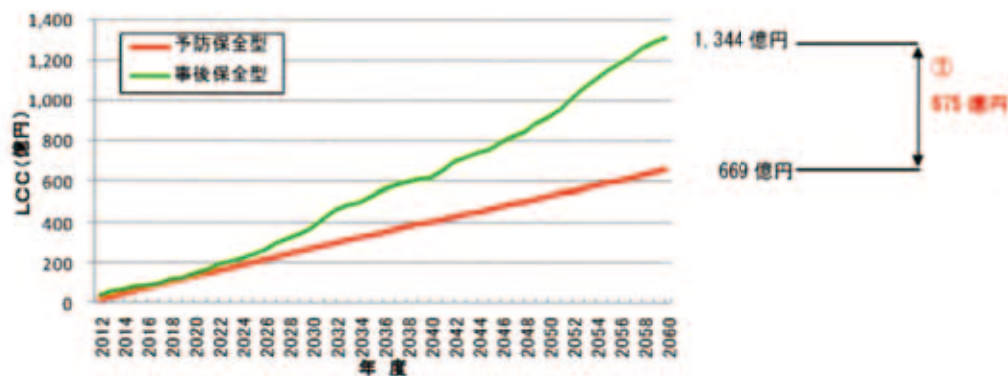


図 15 A グループ橋梁のコスト削減効果⁵⁾

* A グループ：橋長 15m 以上の橋梁、橋長 15m 未満の鋼橋および横断歩道橋（予防保全 669 億円）

B グループ：橋長 15m 未満のコンクリート橋（予防保全 55 億円）

青森県は「橋梁長寿命化修繕計画 10 箇年計画（平成 24 年度～33 年度）」を平成 24 年 5 月に公表した。この中で今後 50 年間に於いて全橋梁の予防保全型維持管理を行うためには 724 億円を必要とすることが示されている。なお、予防保全型維持管理とは、劣化・損傷が進んでから事後対策を行うのではなく、劣化・損傷しないように事前対策を行って構造物を長寿命化させようとするものである。

一方、(財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターは、住宅リフォーム市場規模について、青森県における住宅の修繕維持費は 655 億円に上ると算定している。

1)

八戸市においても同様に「橋梁長寿命化修繕計画 10 箇年計画（平成 25 年度～34 年度）」を平成 23 年 5 月に公表し、15m 以上の橋梁について、今後 50 年間に於ける維持管理経費は 73.7 億円を必要とすることが示されている。

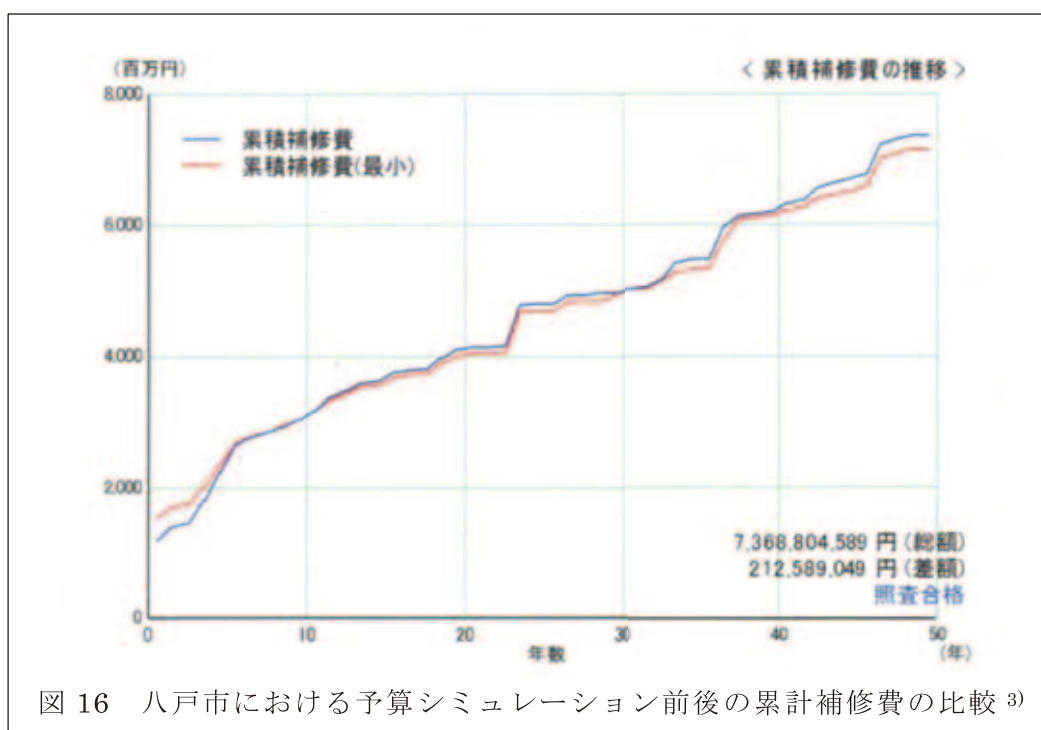


図 16 八戸市における予算シミュレーション前後の累計補修費の比較 ³⁾

(5) 建設産業の展望

建設産業は、社会資本の整備という重要な役割を担っており、地域経済の活性化や雇用を生み出す主要産業である。

しかしながら、建設投資は減少傾向にあり、受注のための価格競争のなかで低労働賃金や長時間労働および就業者の高齢化などの構造的課題が存在しており、これらは良質な建設構造物をつくらうとする技術者倫理や就業意欲にも問題を投じる。これらの課題については、各企業の新しいビジネスモデルに取り組むなどのさらなる経営努力も必要であるが、発注者側である行政の健全なる建設業発展のための施策の提示が期待される。最も効果的な施策としては、最低制限価格の提示である。すなわち、最低制限価格は一般管理費を考慮した工事の採算ラインである 90%程度

（図 7 参照）とし、上限は予定価格の 100%とするなど、適正価格の設定やダンピング対策などの施策提示が期待される。

一方で今後 50 年間に於ける社会資本の維持管理および防災・減災に関する整備についての増加が見込まれており、これらの整備を含めた建設投資額は平成 34 年度において 2,800 億円となることが推測されている。また、この額に相当する建設工事は産業全体で約 3,700 億円の経済的波及効果をもたらし、約 37,000 人の雇用を生み出すことが見込まれており、今後、建設産業は企業独自の経営改善や行政の新施策提示のもと、地域の整備やまちづくりおよび経済発展に大きく寄与するものと期待される。

参考文献

- 1) （一財）建設業情報管理センター・（一財）建設業技術者センター：「地域建設産業のあり方検討委員会（青森県）」報告書、2013.5
- 2) 八戸市：「八戸市建設業等新聞や進出調査報告書」、2010.3
- 3) 八戸市：「八戸市橋梁長寿命化修繕計画 10 箇年計画」、2011.4
- 4) 国土交通省：「社会資本の維持管理・更新に関し当面講ずべき措置」、2013.3.21
- 5) 青森県：「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10 箇年計画」、2012.5

Ⅱ（生活）文化

1 八戸の文化イメージの検討

「図表 1-2 八戸市の人口の推移」より、八戸市の人口が減少傾向にある中で、30 年近く 24 万人台を維持しつづけたことに着目し、八戸市の人口の維持につながる文化的魅力を探るとともに、文化としてのライフスタイルを念頭に、「住みたいまち八戸」としてのイメージを検討する。

（1）地域資源の抽出

イメージを検討するにあたり、八戸の文化的要素を抽出した。

【文化的要素】

※詳細は「八戸市観光基本計画（平成 11 年 4 月）」、「八戸ふるさと検定」参照

祭り、イベント	・八戸七夕まつり ・八戸三社大祭 ・加賀美流騎馬打毬 ・はちのへ菊まつり ・蕪嶋まつり ・八戸えんぶり ・南郷ジャスフェスティバル ・B-1 グランプリ発祥の地 ・工場萌えツアー
食	・せんべい汁（B-1 グランプリ金賞） ・いちご煮 ・イカ（水揚げ高日本一） ・八戸前沖さば ・クジラ汁 ・そばかけ ・菊「阿房宮」（蒸し菊、干し菊） ・八戸の地酒（陸奥男山、八仙、桃川、八鶴など）
生活	・朝市（館鼻岸壁、陸奥湊ほか） ・横丁（8 つの横丁） ・銭湯（早朝営業）／温泉 ・南部弁
伝統工芸	・八幡馬 ・南部裂織
文学・芸術・思想	・詩人：村次郎、和泉幸一郎 ・小説家：夏堀正元、三浦哲郎、室井佑月 ・歌人：梅内美華子 ・思想：安藤昌益、羽仁もと子、永嶋暢子

（２）現状把握／SWOT 分析

次に、合併協議や住民参加型計画策定で利用実績のある **SWOT** 分析を行った。観光の分野では富良野市や京都市では観光に関する施策を検討する際に同分析が用いられている。また、千葉県流山市では都市 **PR** 施策の検討材料としても用いられた実績がある。文化 **WG** では、八戸の文化的側面としてのライフスタイルとそのイメージ向上のための課題の把握を行うことを目的に **SWOT** 分析を行った(33 ページ参照)。各種メディアから、近年の八戸市におけるライフスタイル全般に関する様々なデータを入手した。それらデータおよび文化 **WG** メンバーの八戸市に関する知識を基に、全体会議と **WG** ミーティングを通じてのメンバー間で意見交換を行った。意見交換での議論を踏まえ、外部から影響を受ける機会と脅威、内部に持つ強みと弱みをそれぞれ整理しながら、機会を活かして強みを伸ばす、脅威を避けながら強みを伸ばす、という観点から施策オプションの抽出を行った。その結果が資料 **SWOT** 分析表(31 ページ参照)である。

これにより、文化的側面としての八戸のイメージ向上のために注目した点、取り組む方向性は概略次のとおりである。

SWOT 分析（注目した点）

- ①自然環境・食・文化などの地域資源（**PR** できるコンテンツ）が豊富
- ②「なんもねえまち」という地元民の謙遜意識
- ③3 つの高等教育機関により一定層（就労前）の若者が内外から集結
- ④若者まちなか不在（学校、ショッピングセンターが郊外にある）
- ⑤東京から新幹線で 3 時間半（流入は機会にも脅威にもなる）

クロス集計（取り組む方向性）

- ①×②
 - ・八戸といえば‘○○’（例：せんべい汁）というフレーズの定着・**PR**
- ③×④
 - ・若者をまちなかに
- ①×②＋③×④＋⑤
 - ＝まちなかで若者に八戸について学んでもらい、内外に八戸を **PR** してもらう

但し、元来マーケティング戦略の一手法である **SWOT** 分析をあらゆる側面において妥当な結論を導くことができるかについては、議論のあるところである。とりわけ「脅威」については、周辺自治体の強みに由来する八戸市の相対的弱みから、他自治体の存在をネガティブにとらえる危険性がある。周辺自治体との関係は、相補的關係構築を念頭に施策を抽出することが重要である。また、抽出された施策オプションのいずれを実行することが適切かについても、見識ある判断を要するところである。そのため、施策オプションの抽出を目標に分析を行いつつも、政策決定者の八戸市の実情に合わせた見識ある決断が必要であること。こうした背景を踏まえ、シティプロモーションのプロモーター候補として学生の傾向を把握し、検討した。

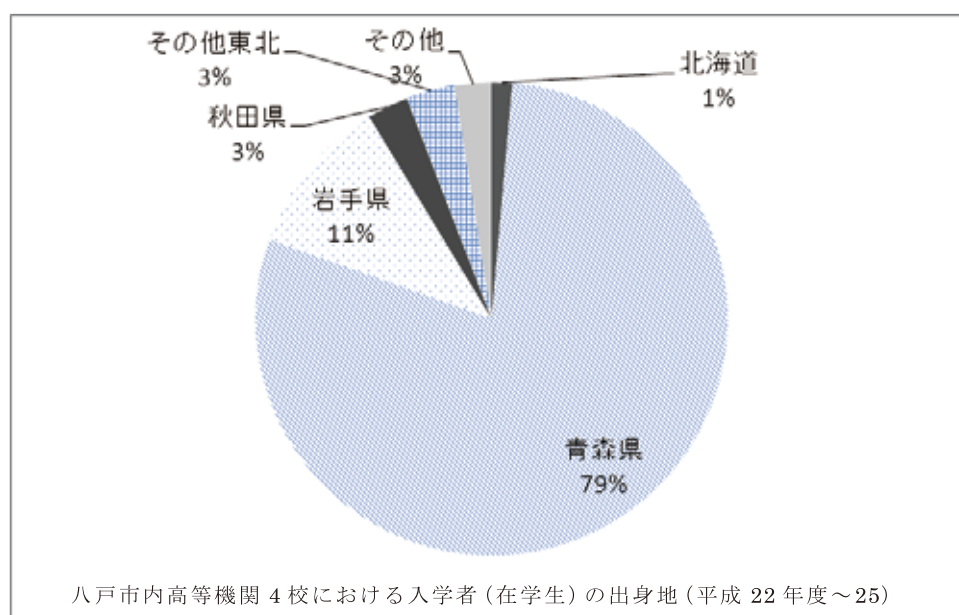
（３）八戸市における学生の流出入傾向（高等教育機関４校における傾向）

八戸市内の高等教育機関は現在４校あり、八戸工業高等専門学校（以下「八戸高専」）、八戸工業大学（以下「八戸工大」）、八戸学院大学（以下「八学大」）、八戸学院短期大学（以下、「八学短大」）における出身先別入学者数（在学生数）、地域別就職状況から流出入傾向を探る。

①出身地 入学者全体の約８割が青森県出身

まず、学生の出身地について、各高等機関から入手した平成２２年度から２５年度までの４年間のデータに基づき傾向を把握する。４校共に青森県が多く、全体に占める割合は、八戸工大が７５%、八学大６０%、八学短大８５%、八戸高専５０%となっている。そのうち八戸市出身者が全体に占める割合は八学大が３０%、八学短大が５０%、八戸高専５０%となっている。

４校の入学生（在学生）の合計では、総数３,２５６人に対し、青森県出身者が２,５７３人と入学者全体の約８割を占め、そのうち約７割が八戸市と八戸市周辺市町村（上北郡、三戸郡）出身者となっている。さらに岩手県（３５５人）は県北が多いことが予想され、大部分が八戸市近隣出身者であることが分かる。



②就職先

就職先については、平成２１年から平成２５年までの５年間の推移を比較すると、青森県内へ就職した割合は八戸工大が平成２１年度を境に東京都と共に３０%台、八学大は４０%、八学短大は平成２５年度で５８%と落ち込んだものの、平均８０%前後となっている。また八戸高専は平成２４年度で１６%となっている。

これにより、八戸市の高等教育機関では、八戸市周辺市町村を中心とした、青森県・岩手県からの流入者が多いが、八学短大以外は半数以上が県外へ流出することが分かる。

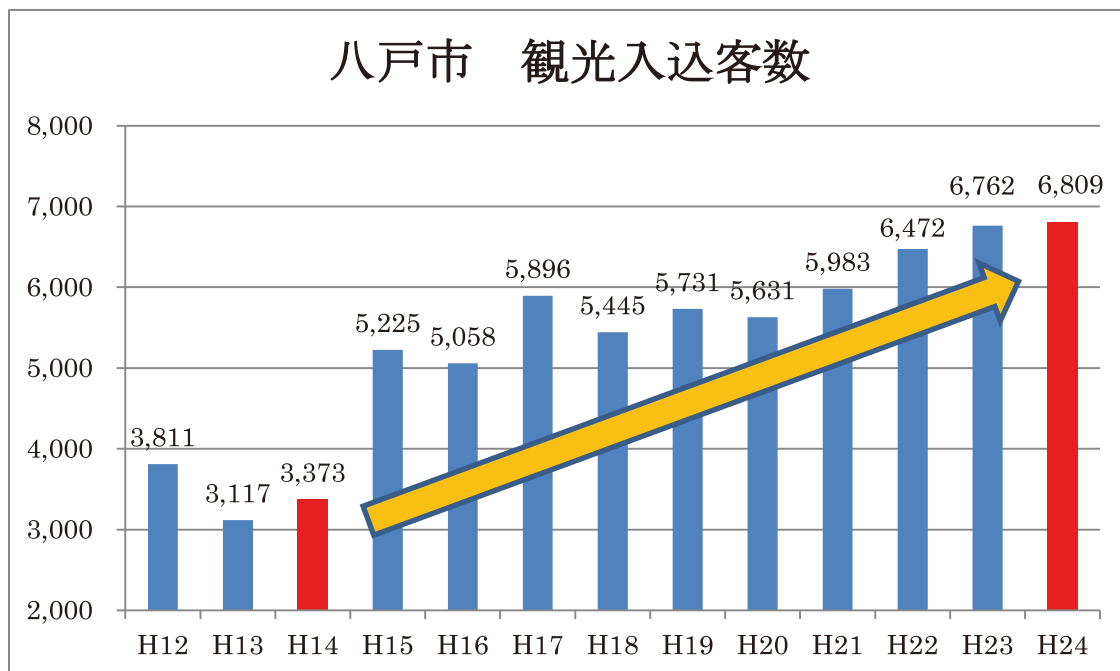
<SWOT 分析表>

SWOT分析による八戸市のライフスタイル状況説明 (外意) とクロス集計 (背景色)

		外部環境	
		機会	脅威
内部環境	強み	・自然環境(風景、開成公園) ・交通(新幹線、フェリー、空港) ・都市機能集約(病院、市営バス、デパート、ほっち) ・景観(えんぶり、三社大塚) ・教育(工学) ・歴史、文化(史跡、邸宅、国造)	・新しい外部流通(イオン、下田、静岡、仙台) ・新幹線の通過点
	弱み	・地元民のみなさんまち意識・教育(人文社会) ・若者文化(ポップカルチャー) ・景観(工業以外の大企業拠出環境) ・車が無く不便	「強み」を活かし「脅威」を克服するために取り組むべきこと ● 中心市街地活性化 → 旧レック・旧マルマツの解体→複合ビル建設進行中
		「強み」を活かし「機会」をモノにするために取り組むべきこと ● サイエンス教育特区構想 ● 伝統と文化都市のイメージ向上(「演文化」「旧城下町」) ● キャッチフレーズ「人」を言えば「まにやうら」 せんべい、もち、ごちなど連想してもらえるようになるまで継続的にPR(伊都宮もジャズのまち、カクテルのまち、餃子のまち、など長年継続して定着してきた・定着しはじめている強み) ● ゆるキャラもゆるぎんずの活用	「弱み」を克服し「脅威」の影響を回避すべく取り組むべきこと ● 旧住居・古い物・老舗の施策 若者文化都市のファッションビル一本化(ファッションと音楽などのエンターテインメント)。ファッションビルはポップな若者向きの流行を発信 おほっち(ほっち)は大人でオアシナルな文化を。

Ⅲ 観光

平成 14 年 12 月の新幹線八戸駅開業前後から、観光振興の機運が高まり、各種イベント開催、PR 媒体（パンフレット等）や PR する場を増やすなどの施策により観光入込客数においては平成 14 年度と平成 24 年度（平成 24 年青森県観光入込客統計）を比較すると 2 倍以上に伸びている（約 337 万人⇒約 680 万人）。



平成 16 年には八戸三社大祭が国重要無形民俗文化財に指定され、平成 21 年には合掌土偶が国宝に指定された。直近では、平成 24 年開催の第 7 回 B-1 グランプリ（北九州市開催）にて八戸せんべい汁研究所が金賞を受賞し、平成 25 年 5 月に種差海岸が三陸復興国立公園に指定されるなど、観光に関連する話題は豊富である。また、是川遺跡においては、世界文化遺産の暫定リストである「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の中の一つとして名を連ねており、登録が期待されている。さらに、八戸三社大祭の山車行事が、18 府県 32 件の山車祭りとともに「山・鉾・屋台行事」として国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産への登録を目指すため、文化庁により提案される予定となっている。

八戸市は、国の天然記念物・蕪島（大正 11 年指定）、国史跡・根城（昭和 16 年指定）、国宝・赤糸威鎧兜大袖付、白糸威褰取大袖付（昭和 28 年指定）なども有している他、八戸市埋蔵文化財センターにおいて管理されている是川遺跡出土品のうち 963 点が国重要文化財に指定（昭和 37 年 633 点指定後、平成 23 年に 330 点が追加指定）されており、国の宝が溢れる地域である。

第3章 八戸市のシティプロモーションの方向性

I 八戸市の都市イメージ

(1) 八戸市の都市イメージとは？

太平洋岸に位置する八戸市は豊富な水産資源と、高度成長における工業・物流拠点の整備により、めざましい発展を遂げてきた。八戸の海岸地域におけるランドマークとして広く親しまれている八戸大橋（夢の大橋）欄干のもとにも高い位置には「八戸は海と共にある（秋山皐二郎第13～17代八戸市長）」という石碑(写真1)が掲げられている。過去・現在・未来を見渡したとき、＜海＞は八戸市の持続的発展にとって不可欠な地域資源といえる。

八戸の豊かな＜海＞から連想されるのは「青」である。青は市章でも用いられ、八戸市の特色を的確に表現し、受け手にとっても明快かつポジティブな印象を与え、多様なイメージを連想させる(図2)。

青は、海・山・川、豊かな自然環境と各種産業集積地である八戸のイメージ、3つの高等教育機関が知の拠点として構える八戸のイメージにふさわしい。また、最近では最先端技術や高環境性能製品のイメージカラーとしても用いられることは良く知られている。



写真 1. 八戸大橋の石碑



図 2. 青から連想されるイメージ

(2) BLUE PORT HACHINOHE プロジェクト

本研究会では「海のまち、匠のまち、観るまちとしての八戸市のブランド力を高め、地域内外に情報を発信し、住みたい・住み続けたいまち、八戸を創造する活動」をこれまで以上に積極的に展開するため、みなと町八戸市が、将来においても青い海の豊かな恩恵により永続的な発展しつづけるという願いをこめて「BLUE PORT HACHINOHE」というコンセプトを提案する(図3)。

「BLUE PORT HACHINOHE」は、文化(Culture)・産業(Industry)、観光(Tourism)の各分野において、持続的で、活力があり、豊かで、先端性の高い活動が行われることをねらったプロジェクトが、八戸市において戦略的に展開されることを目指すものであり、その中心を担うのがあなた (YOU)、すなわち、市民や来訪者を含めた「人」である。

‘BLUE PORT HACHINOHE プロジェクト’の基本となるコンセプトは次の3つのである。

- ① 「青」のイメージにふさわしく未来の八戸発展に必要なプロジェクトを展開

- ② 先端でありながらも自然環境の恩恵、先人の知恵、伝統文化などを尊重
- ③ 「あたらしい公共」と「豊かな地域経済」の実現のためあるべき姿を模索

以上を基本コンセプトとして、文化 (Culture)・産業 (Industry)、観光 (Tourism) の各分野において旗艦となる ‘BLUE PORT HACHINOHE’ プロジェクトを提案する。



図 3. 「BLUE PORT HACHINOHE」概念図

(3) プロジェクトの展開

‘BLUE PORT HACHINOHE’ プロジェクトは、文化 (Culture)・産業 (Industry)、観光 (Tourism) 各分野において旗艦となる事業が含まれる。各分野の事業概要を以下に示す。

| 文化 (Culture) |

市民主導や協働により、将来世代に継承すべき新しい公共文化を形成することを目的としている。ここでは 2 つのプロジェクトを展開する。

「八戸学講義」は八戸の文化・産業・観光等横断的な知識・情報を体系的に学生・市民が学び、地元への理解と愛着を促すものである。三学が連携して特別講座（学位付与）を開催する。

「景観の創出と保存・再生プロジェクト」は、商店街が連携し店舗を青提灯で飾る＜青提灯プロジェクト＞、遊休施設等を再活用することで新しい景観の創出、歴史的に親しまれた懐かしい八戸の景観を保存し再生する事業を推進する。平均化した地方都市景観において、固有さ、アイデンティティ獲得を狙う。

| 産業 (Industry) |

知的で先端的・高環境性能な産業プロジェクト Blue Industry 推進する。ここで

は3つのプロジェクトを展開する。

「包括的エネルギー拠点化プロジェクト」は、LNGや石油備蓄といったエネルギー資源事業を積極的に推進するとともに、太陽光・風力・水（波）力など地域に豊富な自然エネルギーの活用、産業・民生・運輸等各部門における「省エネルギー化」を促進し、環境配慮型、高環境性能な産業プロジェクトを推進する。

「スマートデザインプロジェクト」は、ものづくりが集積する八戸において、手仕事、伝統的仕事を持つ価値を最認識し、デザインにより新しい付加価値をつけることで、良いものをカッコよく売るプロジェクトを推進する。

「里山プロジェクト」は、農林水産の一次産業のなかでも、今後より一層の発展が見込める林業や農業において、生産者が自立し雇用が確保される持続可能な方法についての研究や事業支援を推進する。一例として欧州ドイツを始めとする完全木材自給の国では持続的な森林経営を行うことで、地域に関連する様々なサプライチェーンを形成し、経済効果と雇用をもたらしているように、地産型産業が地域に貢献するメリットが大きいことを指摘したい（図4）。

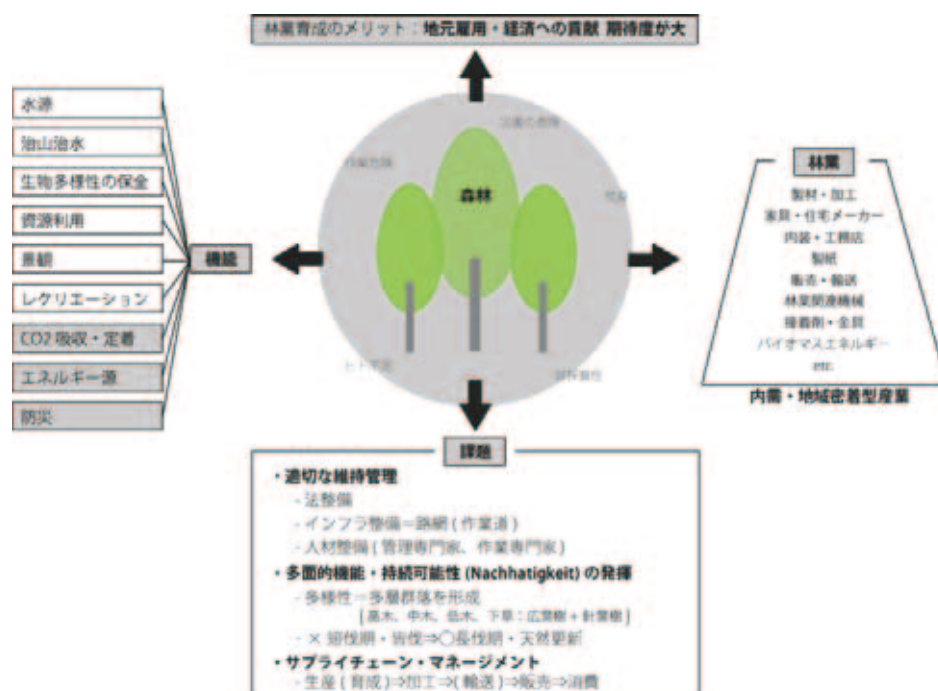


図4. 持続的な森林経営のモデル

観光（Tourism）

あたらしい観光概念としての Blue Tourism を推進するものである。ここでは2つのプロジェクトを展開する。

「海外マーケットインプロジェクト」は、イスラム法に対応するハラル（Halal）対応型観光推進と、英語によるおもてなし力を強化することで、外国人をターゲットにした観光を促進する。

「ローカル・シーズンブルな観光推進」は、気候風土文化の相違は異文化圏から

訪問する観光客には刺激的で魅力的な価値を提供する。そこで年間を通じ特異な気候と風土・文化的な特性を生かした観光アイテムを発掘し推進する。

表 5. ‘BLUE PORT HACHINOHE’ プロジェクトの展開

‘BLUE PORT HACHINOHE’ プロジェクト				
① 「青」のイメージにふさわしく未来の八戸発展に必要なプロジェクト				
② 先端でありながらも自然環境の恩恵、先人の知恵、伝統文化…を尊重				
③ 「あたらしい公共」と「豊かな地域経済」の実現のためあるべき姿を模索				
目的		プロジェクト		
		名称	概要/効果	
文化	市民主導や協働により、将来世代に継承すべき新しい公共文化を形成	八戸学講義プロジェクト	八戸の文化・産業・観光等横断的な知識・情報を体系的に学生・市民が学ぶ。学生や市民の地元への理解・愛着促進。	
			事業	3学連携八戸学講義の開講
				市民対象八戸学講座
		景観の創出と保存・再生プロジェクト	商店街が連携し店舗を青提灯で飾るプロジェクト、遊休施設等を再活用することで新しい景観の創出、歴史的に親しまれた懐かしい八戸の景観を保存し再生する事業を推進。平均化した地方都市景観において、固有さ、アイデンティティを獲得する。	
事業	創出系：青提灯プロジェクト			
	保存系：既存施設を活用した芸術パーク			
産業	知的で先端的・高環境性能な産業プロジェクト Blue Industry 推進	包括的エネルギー拠点化プロジェクト	LNG や石油備蓄といったエネルギー資源事業を積極的に推進するとともに、太陽光・風力・水（波）力など地域に豊富な自然エネルギーの活用、産業・民生・運輸等各部門における「省エネルギー化」を促進し、環境配慮型、高環境性能な産業プロジェクトを推進。	
			事業	市民自然エネルギー発電所
		ローコスト低燃費住宅		
		スマートデザインプロジェクト	ものづくりが集積する八戸において、手仕事、伝統的仕事を持つ魅力を最認識し、良いものをカッコよく売るプロジェクトを推進する。	
事業	リデザインプロジェクト（2章-12ページ参照）			
	例）南部裂き織、新しい日本酒開発			

観 光		里山プロジェクト	農林水産の一次産業のなかでも、林業や農業において生産者が自立し雇用が確保される持続可能な方法について研究や事業支援を推進する。	
			事業	林業サプライチェーン構築
				地産型農林事業モデル開発
	あたら しい観 光概 念と して の Blue Tourism を 推 進	海外マーケットイン プロジェクト	外国人をターゲットにした観光スキーム構築	
			事業	ハラール(Halal)対応型観光
				英語によるおもてなし力強化
		ローカル・シーズンブ ルな観光推進	年間を通じ特異な気候と風土・文化的な特性を生かした観光アイテムを発掘し推進する。気候風土文化の相違は異文化圏観光客には刺激的で魅力的。	
			事業	八戸（北東北）冬物語 縄文体験・民泊ツアー

Ⅱ 産業

1 プロモーションプロジェクト

産業カテゴリーにおいては、上述のコンセプトに基づき、Ⅰに掲げられた諸プロジェクトを提案する。

Ⅲ （生活）文化

1 「自称 八戸大使」の創出

① 戸大使とは

八戸市は八戸市の知名度とイメージ向上を図るため、全国で活躍している八戸ゆかりの方々に、八戸の魅力を PR してもらうことを目的に、八戸特派大使制度を実施している。この「八戸特派大使（通称：八戸大使）」は東北新幹線開業を間近に控えた平成 10 年度から始まり、平成 25 年度 8 月末現在で 87 名に委嘱している。

〈大使の任務〉

1. 八戸の魅力や良さを積極的に紹介していただく。
2. 八戸市の各種情報の収集にあたり、首都圏・大阪圏等と八戸市の橋渡しに努めていただく。
3. 八戸市への提言、助言、情報提供をいただく。
4. その他、八戸市のイメージアップのため各種、御協力をいただく。

(参考 URL: <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/8,142,15,27,html>)

② まちなか講義（仮称）の提案

- ・ 4 校共に市街地にあることから、「八戸ポータルミュージアム はっち」などまちなかで 4 校を対象にした夏休み集中講義を提案。

- ・内容は、八戸についての講義及びワークショップで、このワークショップを通して学校間の交流を図ると共に、班又は個人で「八戸って〇〇」というキャッチコピーを作成。
- ・八戸市に定住しつづける人は八戸を案内する時に、市外へ出て行った人は八戸の魅力が伝わるよう、「八戸って〇〇」とPR。⇒ロコミ効果を狙う。

③シラバス(次ページ参照)

2 プロモーションプロジェクト

(1) (生活)文化カテゴリーにおいても、I のコンセプトに基づき、そこに掲げられた諸プロジェクトを提案する。

(2) プロモーターの養成

シティプロモーションをしかけるプロモーターとして、進学、就職、結婚、退職といったライフスタイルに変化が訪れる世代が候補として考えられるが、大多数の人が初めて自らの意思で転居するきっかけとなる進学・就職に着目し、学生(大学・短大・高専)を候補とする。

30 ページの分析を踏まえ、プロモーター養成の方向性として、第一段階では、学生に八戸の魅力を知ってもらうための学びの場(前述の「まちなか講義」など)を提供し、第二段階では、そこで形成されたコミュニティから情報発信できる下地作りを行い、最終的には卒業した学生がプロモーターとして八戸を発信することを目指す。

例＜八戸学シラバス＞

科目名称	八戸学
担当教員	〇〇〇〇（八戸学院大学）、〇〇〇〇（八戸工業大学）、〇〇〇〇（八戸工業高等専門学校）、ほか
開講時期	前期（集中講義） 5月〇日（土）、7月〇日（土）、8月〇日（*）-〇日（*）
授業目的	この授業は、八戸地域の産業・文化等について、実地にフィールド・ワークを行ったうえで、理論的な裏付けをもとに地域の特長、潜在力、魅力を分析し、的確な形で広報する方法を検討する。
授業概要	授業は教員による講義と現場での調査、グループ討論、全体への発表などによって行う。開講日、開講場所（学外）に注意。
授業計画	1 講義：八戸の歴史（産業の観点から） 2 実地見学 1（工場群、八戸港） 3 実地見学 2（工場群、八戸港） 4 実地見学 3（工場群、八戸港） 5 講義：八戸の祭り 6 実地見学 4（山車制作協力） 7 実地見学 5（山車制作協力） 8 実地見学 6（山車制作協力） 9 講義：八戸市の文化事業 10 実地見学 7（グループに分かれて市内の文化事業運営の現場に参加） 11 実地見学 8（グループに分かれて市内の文化事業運営の現場に参加） 12 実地見学 9（グループに分かれて市内の文化事業運営の現場に参加） 13 グループごとのプレゼンテーション 1 14 グループごとのプレゼンテーション 2 15 まとめ
履修上の注意	討論、事例研究のテーマであるので、フィールド・ワークには必ず参加しなければならない。
評価方法（評価基準を含む）	授業への参加（出席）10%、討論への参加 10%、授業内での発表等 30%、提出課題 50%によって評価する。
参考書、教材等	最初の授業で教員が指定する。

IV 観光

ここでは、Iに掲げられたプロジェクトを提案すると共に、①市内観光資源に対する客観的データ取得について、②外国人旅行者の利便性について及び③シティプロモーションの推進組織体について提言する。

現在、市内の観光資源を語る際には、話者の主観で語られることが多く、マーケティングの観点が少ない。戦略が練られ、戦術に落としこまれる段階において重要とされる客観的なデータ取得についての意義を強調する。

一例だが、観光資源に対する認知度調査は、観光課や商工会議所によって市外で集められているが、認知度のみで観光資源を評価することは難しい。「知っている」と「(旅行先として)興味がある」は必ずしも相関関係がなく、興味度(旅行意欲を喚起する度合い)を同時に測ることなどが必要となる。

限られた予算内での最大効果に繋がるよう、「観光資源の棚卸し」作業の重要性を強調したい。

次に、外国人旅行者が八戸市内を周遊するにあたり、その利便性を向上するため、現状と提言をする。ハード面での整備が近々に整わない場合でも、ウェブ(インターネット) ページでの告知や情報提供は可能であり、その可能性を探る。

最後に、八戸市全体のシティプロモーションを俯瞰するような活動を行う組織体そのものについて多少触れたい。

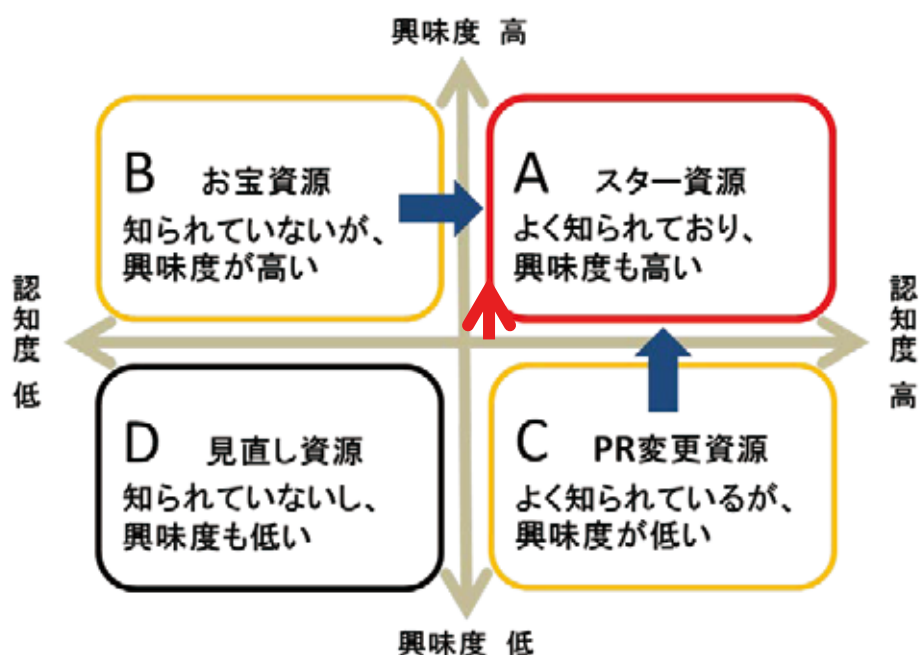
提言 1. 観光資源に対する客観的データの取得について

目的は、客観的データを基に、観光やシティプロモーションの計画を設計、実施することにより、観光予算の最大効果に繋げること。

全国をカバーする観光関連調査を実施する機関は、本プロジェクトにおいて4社把握できた。日本交通公社、リクルートじゃらんリサーチセンター、JTB 総合研究所、観光マーケティング研究所である。それぞれ自治体との協議を経て、調査の設計をし、実施、納品（レポート提出）となり、概ね 150～250 万円程度で一つの調査が行われる。

一例として、じゃらんリサーチセンターの GAP（ギャップ）調査では、特定エリア（市町村や広域エリア）内の観光資源に対する認知度と興味度をはかる調査である。観光資源の健康診断という意味合いがあり、今後執るべき戦術のヒントを提示する。

●GAP 調査 イメージ図（認知度と興味度を軸とした観光資源分析）



調査結果によって、採用すべき戦術が異なることに留意したい。

- A. 地域の有望資源あり、これまで同様に強く PR する。
- B. 知られていない「お宝資源」として再認識し、優先順位を上げ、露出を増やす。
- C. 興味を喚起する PR 手法（媒体、表現、付随する物語、他資源とのコラボレーション等）を探る。
- D. 抜本的に見直す。

その他、日本交通公社、JTB 総合研究所、観光マーケティング研究所、じゃらんリサーチセンターにおいて幅広い調査、マーケティング商品があり、本市観光産業の段階に合わせて利用することが望ましい。

- ・観光客動態調査（地域内、広域内における観光客の動線調査）
- ・観光（旅行）行動・ニーズ等マーケティング調査
- ・訪日観光客誘致マーケティング

繰り返しになるが、街の観光に関して、カスタマー（観光客）視点での戦略、戦術策定が有効と考えている。各地域が観光振興に力を入れる中、限られた予算内で最大効果（誘客等）に結びつける施策、事業を設計するために、客観的なデータを取得する、調査により地域の現状を把握するなどの観点を取り入れることを提言したい。

提言 2. 外国人観光客呼び込みのために

外国人観光客が訪れやすいまちづくり、そして八戸のイメージを向上させる方法を検討してきた。その中でもまずは、観光や休日に遊びに来るような短期滞在の外国人に焦点をあてて考えた。観光で訪れる外国人は、日本語がほとんどわからないと考える。

1 現 状

英語を母国語としない外国人もたくさんいるが、英語が世界の共通語であるのとは言うまでもない。外国人観光客が、八戸で英語での情報が得られているのか調査した。八戸は歴史も古く、絶景な場所、温泉、美しい海岸や公園が存在する素晴らしい街である。また、ショッピング、アクティビティ、外国人にアピールできるスポーツができるとても便利な所である。新幹線の停車駅であり、またフェリーも使えることから、外国人観光客の通り道にもなる。さらに、もう少し英語での情報があれば、三沢在住の多くのアメリカ人が八戸に頻繁に訪れるだろう。外国人観光客に訪れてもらうためには、まず、街周辺やネット上で英語による情報を与えてあげることである。

しかしながら、現在の八戸では依然、市や地元企業、公共団体から十分な英語による情報が提供されてない。英語の観光地図、主要カ所、祭り、産業物の説明会のパンフレットがあるものの、地図はざっくりしていて、車以外の公共交通機関でのアクセスが記載されていない。さらに、現在の英語の地図と祭りのパンフレットは印刷のみで、ネット上では情報が得られない。つまり、八戸に実際に到着した人しか八戸の情報が得られないということだ。英語観光案内パンフレットは存在するものの、どこでも手に入るということでもなさそうだ。ちなみに、プロジェクトメンバーでさえ、本八戸駅でそのパンフレットをみかけなかった。(2013 年秋)

確かに 八戸駅には、はっきりと英語で「**Tourist Information Center**」と書かれた場所があり、英語を話せるスタッフもいる。しかし、現状では外国人観光客に対してあまりにも英語の情報が少なすぎる。観光案内所のスタッフさんも「漢字が理解できなければ、今のところ外国人個人での八戸観光は難しい」のとのこと。もちろん観光案内所ではできる限り案内はするが、初めて八戸を訪れる外国人観光客にとっては、現地でさえ、十分な情報が得られるとは言い難い。



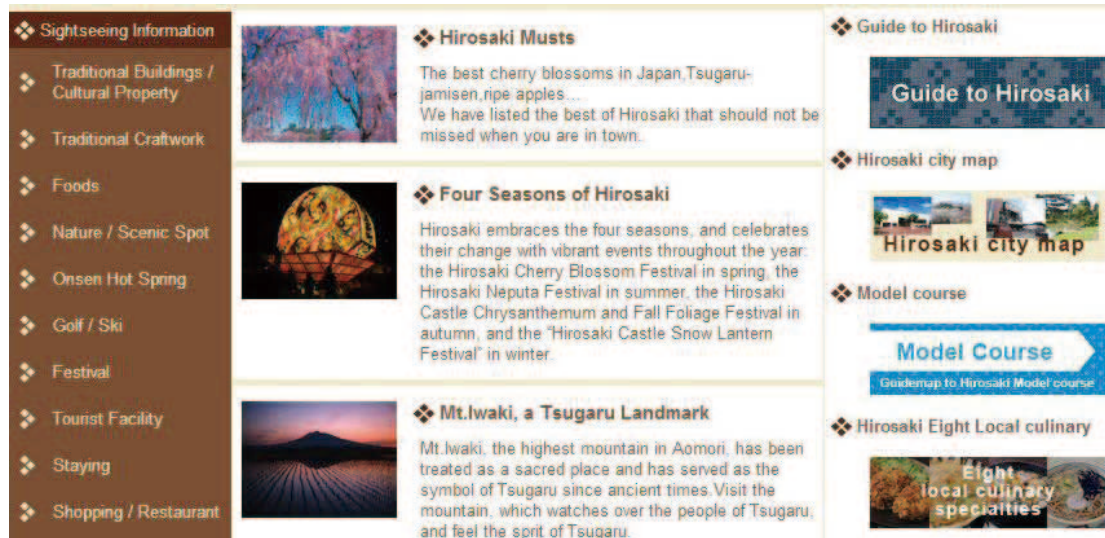
2 ネット上で八戸に関する英語情報

なんでもインターネットで情報収集をする時代であり、外国人観光客も訪問する国や地域の情報をネットや大手観光ガイドで調べるはずである。残念なことに英語による八戸の情報は少しでしかない。Wikipedia は、人気情報サイトの一つで検索すると大抵最初に検索結果にでてくる。八戸に関する英語ページは、歴史、経済、地理、天候、城跡地、蕪島、えんぶり、三社大祭の観光情報が少しだけ記載されている（2013 年秋時点）。さらに詳しい情報があれば、外国人観光客に八戸のことを発信できるのだ。

Facebook も観光情報が得られ、Wikipedia や他の観光情報サイトのように、しばしば更新されないかもしれないが、イベント、祭り、アクティビティ情報が得られる人気サイトである。

八戸市も Facebook ページがあるが(www.facebook.com/hachinohecity)、日本語のみである。現在おこなわれているイベントの情報を英語で発信すべきである。

八戸市の公式ホームページ(www.city.hachinohe.aomori.jp)も、英語で観光情報がない。在住している外国人のために(“to foreign residents”との表現)、防災ガイドと生活ガイドが英語で記載されている。(travel guide & map) も記載されているが



「在住している外国人のため」の情報なので、英語観光情報を探している外国人は見つけられないだろう。市内観光 (www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko) のページはあるが、日本語のみなので、英語の旅行情報、および同様なページへのリンクを追加することを強く勧めたい。例として、弘前市のホームページをみていただきたい (www.city.hirosaki.aomori.jp)。英語版の観光情報を細かく提供している。上の写真は、弘前市のホームページにリンクされた外国語観光案内ページの一部である (<http://en.hkg.jp>)。どこでもクリックすると、とても多くの詳しい情報が外国語で(英語、韓国語、中国語)出ている。

八戸は、外国人が関心のある多くの民間企業、サービス、アトラクション、スポーツ団体があるが、ネットで検索しても全く英語の情報がないことがわかった。下のホームページは全て日本語。英語の情報はほとんどなし（2013 年秋時点）。

- ・八戸市ホームページ（ただし八戸に在住の外国人のための英語版情報あり）
- ・八戸市交通部(バス)
- ・八戸屋台村みろく横丁
- ・さくら野
- ・CINO
- ・八戸フォーラム
- ・八戸ユートリー
- ・はっち
- ・八食センター
- ・ラピア
- ・ピアドゥ
- ・八戸公園（こどもの国・植物公園），（遊戯施設利用案内）
- ・東北フリースタイルズ(アイスホッケー)
- ・八戸 ヴァンラーレ（サッカー）
- ・蕪島

八戸市は、今後外国人観光客を増やすためには、ウェブサイト上に、基本的な英語の情報を追加することである。また、地域の個人でも団体でも、ウェブサイトの管理者に協力を働きかけるのが望ましい。

3 英語版ガイドブック

外国人向けの日本に関する人気旅行ガイドブックは、「Lonely Planet」と「Fodors」である。1年から3年でガイドブックの中身をすべて更新している。検討委員会では、これらの日本旅行ガイドブックの最新情報のコピーを取得した。（Fodor's Japan 2012年発行）、（Lonely Planet Japan 2013年発行）両方のガイドブックには、十和田、弘前、八甲田山、恐山、青森市などの分野を特色に青森県のセクションが含まれている。しかし、これらの人気ガイドブックのいずれも、八戸に関する旅行や観光情報がない。このようなガイドブックは、日本国内の外国人の旅行記も含まれる。たとえば、このようなガイドブックに八戸について掲載してもらっても、そんなに高い効果はないだろう。やはり、八戸への観光客を増やしていく一番の方法は、一般のインターネット上で、より多くの英語観光情報を発信し、利用できるようにし、観光しやすい街にすることだろう。さらには口コミで、ガイドブックの著者自身が八戸を訪れ、ガイドブックに紹介できる日がくるかもしれない。



HACHINOHE 八戸 population 235,000 Hachinohe is a major port and transportation hub in eastern Aomori that boasts convenient access via the Tohoku shinkansen. Hachinohe is also connected to Tomakomai, Hokkaido as well as other ports in Honshu via ferry service. Hachinohe offers a wide variety of natural beauty, fascinating cultural events, and enjoyable activities that make a visit worthwhile. SIGHTS Tanesashi Coast - A 12-kilometer stretch of coastline officially designated as a national spot of scenic beauty. Visitors can enjoy the enormous natural green lawn, or hike the coast side on one of the many trails. Shirahama Beach - A scenic white-sand public beach that is popular for camping, outdoor BBQs, sunbathing, swimming, and also offers a surfing area. Kabushima Shrine - A Shinto shrine perched atop an island that is a breeding ground to more than 30,000 black-tail gulls. Visitors can walk among the gulls and observe their nests close-up and enjoy the sandy beach at the island base. Kushihiki Hachimangu Shrine - Historic home of a number of national and prefectural treasures. Korekawa Ruins - An archeological site that showcases excavated artifacts and from the Jomon period as well as a learning center. Hachinohe City Museum - Explore the culture and history of Hachinohe. Hacchi Portal Museum - Opened in 2011, "Hacchi" is the city's modern information hub for local events and tourism, as well as being home for multiple art and culture exhibits. Hachinohe City Marine Science Museum "Marient" - Features exhibits and information on local sea and coastal area life.	EVENTS Enburi Festival - (Feb 17-20 annually) Teams of dancers perform an 800-year old dance in hopes of a plentiful harvest. Sansha Taisai Festival - (Jul 31-Aug 4 annually) Giant elaborate floats feature moving parts, accompanied by music and dancing performers. Nango Summer Jazz Festival - (July) Outdoor concerts that feature multiple artists from around the globe. Summer Harbor Fireworks Show - (August) Spectacular fireworks extravaganza over the ocean by the harbor. ACTIVITIES Ice Skating - Coined "Ice Paradise", Hachinohe boasts 4 ice rinks, including an outdoor rink. All offer public skating as well as frequent ice sport events. SPORTS Soccer - Hachinohe Vanrare - Hachinohe's up and coming soccer club that aims to become a national pro team. Ice Hockey - Tohoku Freeblades - Hachinohe is home to one of the 4 professional Japanese teams in the Asia League. BATHING Dozens of natural hot springs and public bathhouses all around the city, each offering a unique bathing experience. FOOD Hasshoku Center - Popular market featuring local fresh-catch seafood and other products to bring home or enjoy in one of the many on-site restaurants. Hachinohe Yatai Village Mirokuyokocho - Convenient downtown assortment of cozy and unique restaurants. Morning Markets - Hachinohe offers a number of lively morning markets selling local seafood, produce, and a variety of other goods. For information on visiting Hachinohe, visit: www.city.hachinohe.aomori.jp
--	---

4 市内の英語表示

八戸観光という観点から考えてみると、周辺や地元住民でない限り、日本人外国人を問わず皆、車もなく、主な移動は公共交通機関になるだろう。しかし、外国人にとって、高度な日本語能力なしでは八戸市内の観光は不可能に近い。JR 八戸線での移動は非常に簡単だが、八戸全ての場所をカバーしていない。一方、バスは八戸のあちらこちらに路線があり、簡単に市内を行き来できるが、バス会社のホームページには英語のサポートはなく、バス停や時刻表、バス自体の行き先表示も英語ではない。これらのサポートがホームページ上で英語であれば、外国人のバス利用頻度をさらに増やせるし、観光地へのアクセスも増える。

八戸市営バス通過予定時刻表

平日時刻表

バス番号	行先	通過時刻	%	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
[501] [502]	鶴ヶ島駅前 中心街(中心)・東宮前駅前	08:00 08:10	0.8	27 27	25 27	12 14	13 15	22 25	25 28	12 14	13 15	22 25	25 28	12 14	13 15	22 25
[503] [504]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	08:10 08:20	0.8													
[505] [506]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	08:20 08:30	0.8	11 11												
[507] [508]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	08:30 08:40	0.8													
[509] [510]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	08:40 08:50	0.8													
[511] [512]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	08:50 09:00	0.8													
[513] [514]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	09:00 09:10	0.8													
[515] [516]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	09:10 09:20	0.8													
[517] [518]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	09:20 09:30	0.8													
[519] [520]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	09:30 09:40	0.8													
[521] [522]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	09:40 09:50	0.8													
[523] [524]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	09:50 10:00	0.8													
[525] [526]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	10:00 10:10	0.8													
[527] [528]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	10:10 10:20	0.8													
[529] [530]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	10:20 10:30	0.8													
[531] [532]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	10:30 10:40	0.8													
[533] [534]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	10:40 10:50	0.8													
[535] [536]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	10:50 11:00	0.8													
[537] [538]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	11:00 11:10	0.8													
[539] [540]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	11:10 11:20	0.8													
[541] [542]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	11:20 11:30	0.8													
[543] [544]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	11:30 11:40	0.8													
[545] [546]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	11:40 11:50	0.8													
[547] [548]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	11:50 12:00	0.8													
[549] [550]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	12:00 12:10	0.8													
[551] [552]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	12:10 12:20	0.8													
[553] [554]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	12:20 12:30	0.8													
[555] [556]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	12:30 12:40	0.8													
[557] [558]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	12:40 12:50	0.8													
[559] [560]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	12:50 13:00	0.8													
[561] [562]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	13:00 13:10	0.8													
[563] [564]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	13:10 13:20	0.8													
[565] [566]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	13:20 13:30	0.8													
[567] [568]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	13:30 13:40	0.8													
[569] [570]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	13:40 13:50	0.8													
[571] [572]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	13:50 14:00	0.8													
[573] [574]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	14:00 14:10	0.8													
[575] [576]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	14:10 14:20	0.8													
[577] [578]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	14:20 14:30	0.8													
[579] [580]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	14:30 14:40	0.8													
[581] [582]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	14:40 14:50	0.8													
[583] [584]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	14:50 15:00	0.8													
[585] [586]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	15:00 15:10	0.8													
[587] [588]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	15:10 15:20	0.8													
[589] [590]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	15:20 15:30	0.8													
[591] [592]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	15:30 15:40	0.8													
[593] [594]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	15:40 15:50	0.8													
[595] [596]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	15:50 16:00	0.8													
[597] [598]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	16:00 16:10	0.8													
[599] [600]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	16:10 16:20	0.8													
[601] [602]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	16:20 16:30	0.8													
[603] [604]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	16:30 16:40	0.8													
[605] [606]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	16:40 16:50	0.8													
[607] [608]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	16:50 17:00	0.8													
[609] [610]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	17:00 17:10	0.8													
[611] [612]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	17:10 17:20	0.8													
[613] [614]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	17:20 17:30	0.8													
[615] [616]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	17:30 17:40	0.8													
[617] [618]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	17:40 17:50	0.8													
[619] [620]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	17:50 18:00	0.8													
[621] [622]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	18:00 18:10	0.8													
[623] [624]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	18:10 18:20	0.8													
[625] [626]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	18:20 18:30	0.8													
[627] [628]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	18:30 18:40	0.8													
[629] [630]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	18:40 18:50	0.8													
[631] [632]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	18:50 19:00	0.8													
[633] [634]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	19:00 19:10	0.8													
[635] [636]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	19:10 19:20	0.8													
[637] [638]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	19:20 19:30	0.8													
[639] [640]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	19:30 19:40	0.8													
[641] [642]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	19:40 19:50	0.8													
[643] [644]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	19:50 20:00	0.8													
[645] [646]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	20:00 20:10	0.8													
[647] [648]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	20:10 20:20	0.8													
[649] [650]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	20:20 20:30	0.8													
[651] [652]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	20:30 20:40	0.8													
[653] [654]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	20:40 20:50	0.8													
[655] [656]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	20:50 21:00	0.8													
[657] [658]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	21:00 21:10	0.8													
[659] [660]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	21:10 21:20	0.8													
[661] [662]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	21:20 21:30	0.8													
[663] [664]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	21:30 21:40	0.8													
[665] [666]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	21:40 21:50	0.8													
[667] [668]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	21:50 22:00	0.8													
[669] [670]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	22:00 22:10	0.8													
[671] [672]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	22:10 22:20	0.8													
[673] [674]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	22:20 22:30	0.8													
[675] [676]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	22:30 22:40	0.8													
[677] [678]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	22:40 22:50	0.8													
[679] [680]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	22:50 23:00	0.8													
[681] [682]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	23:00 23:10	0.8													
[683] [684]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	23:10 23:20	0.8													
[685] [686]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	23:20 23:30	0.8													
[687] [688]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	23:30 23:40	0.8													
[689] [690]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	23:40 23:50	0.8													
[691] [692]	鶴ヶ島 中心街(中心)・東宮前駅前	23:50 00:00	0.8													



ネスやサービスに集客効果を与える。実際に、八戸駅の観光案内所のスタッフにうかがったところ、外国人観光客に一番聞かれる質問は、「どこで無料の Wi-Fi が利用できるか」ということである。観光客は、地図、言語翻訳、旅行情報を自由に得るためにインターネットにアクセスできる場所を

常に探している。むろん、これは当たり前のことである。主要携帯電話会社に加入していないと Wi-Fi が利用できないという場所ではなく、八戸も先駆けて公共エリアでの無料 Wi-Fi スポットをたくさんつくるべきだ。

5 より多くの外国人観光客を八戸によびこむための提案

日本に来る多くの外国人観光客が良く利用する Japan Rail Pass(JR パス)で日本全国をまわると考えると、新幹線停車駅である八戸は、とても来やすい位置にあり、名前も一回は耳に入ると思われる。そのことを踏まえ、外国人が訪問しやすい状況さえつくれば、2020 年東京オリンピックでは八戸へ多くの訪問者が増える可能性がある。東京の巨大なメトロポリスから離れた自然豊かな日本を提供するのに、八戸はとても魅力的だ。



それには、何回も述べたようにインターネット上で利用可能な英語の観光情報が不可欠である。現在更新されているウェブサイトを一早く英語版にも対応することである。これはそんなに難しいことではなく、コスト面でも抑えられる可能性もある。外国人のために、多くの八戸の観光事業の扉を開くだけでなく、八戸の知名度を国内外に広めることを希望するなら、ネット上で英語情報を利用可能できるように努力する価値はあるだろう。八戸市はすぐにでも、外国人観光客のための英語旅行情報提供をすぐに開始し、同様に地域企業、旅行会社、イベント主催者、ホテルにも協力してもらう必要がある。

ウェブ上で、英語で市内のバスマップ、時刻表を提供することもそんなに難しいことではないはずだ。バスルートにはすでに番号があるので、後は、外国人がバス番号とルートを一致できるような情報を与えてあげるだけである。常にネット上でイベントやスケジュールの変更（スポーツ、祭りなど）を更新する必要もある。これは、現在のイベントとスケジュール情報に対応した Facebook ページへのリンクを作成したり、単純に外国人が英語で問い合わせることのできる、メールアドレスを提供することで維持できる。

実際のところ、八戸市で専用の外国人観光客案内営業所を設立することを検討すべきである。英語で対応できる従業員が一人でもいれば、問い合わせの対応、ウェブサイトの更新など、観光客が求めているものに対応できるはずである。また、地元企業や団体への英語情報提供の協力もできる。八戸観光案内公式 **Facebook** のなどを利用して、常に外国人に情報や問い合わせ窓口を提供し、いろいろな角度から八戸をアピールし、外国人のニーズにこたえられるように努力すれば、知名度アップ、集客にもつながるであろう。

八戸は、観光だけではなく、外国人が「体験」や「する」ことができる魅力ある街である。

歴史：是川縄文館、史跡 根城の広場、櫛引八幡宮、八戸市博物館など

観光：白浜海岸、種差海岸、燕島

イベント：三社大祭、えんぶり、お花見名所

スポーツ：フリーブレイズ アイスホッケー、ヴァンラーレ八戸 サッカーなど

温泉：温泉エリア、ユニクな風呂場、日本風呂の習慣

食：八食センター、屋台村横町、朝市

遊：こどもの国、海岸、サーフィン、ドライブ、釣り、公園、水族館、児童科学館、アイスアリーナ

買：ショッピングモール、リサイクルショップ（外国人に人気がある）

もう一つは、簡単に移動するために、推薦観光コースをいくつか提供することである。外国人に焦点をあて、八戸のさまざまな側面を紹介・体験できるコースをつくり、八戸をアピールする。（歴史ツアー、スポーツツアー、オーシャンツアー、食料ツアーなど、所要時間やアクセスの仕方も提供する。）

おそらく、最も簡単に八戸をアピールする手段は、現在および将来的に英語の口コミ情報を更新/作成をすることであろう。ネイティブスピーカーを探すのは全く問題ないだろう。市が雇用している、外国青年招致事業の一部である国際交流指導員（**CIR**）と十分な外国語指導助手（**ALT**）がいるのだから、彼らに協力してもらうことができる。また、大学や教育施設には、バイリンガルの方もいるので、旅行情報の提供に協力してもらう。

提言 3. シティプロモーション推進組織体について

現状では、八戸市のシティプロモーション全体を俯瞰、統括、推進する組織体は存在せず、各テーマごとに立ち上げられた推進組織体が独自に活動を行っている。組織連携の有効性や、コラボレーションのアイデアが交換される場は限定的となっている。特定の組織が、既存団体の活動や市の施策などを俯瞰することで、（例えば）はちのへホコテンとブイヤベースフェスタ間における共同事業の可能性が生まれたり、南郷アートプロジェクトと八戸せんべい汁研究所が連携することの有効性などについて議論が生まれ、シティプロモーションの総合力が高まる。

また、シティプロモーションを推進するにあたり、指標を設定し、定点観測を行うことも提言したい（目標設定、振り返り）。

複数の選択肢が挙げられる。

- ・ 転入者数
- ・ 交流人口（観光客）による消費額
- ・ メディアによる無料掲載・放映頻度（広告換算）
- ・ 市民主体のイベント実施回数 など

目標設定が必ずしも不可欠であるとは言い切れないが、関係者の意志統一が図られ、戦術や活動内容の軸が定まるものと考えられる。

おわりに

本報告では、第一に、シティプロモーションとは何か、ということについて先行研究に沿って検討し、八戸市のシティプロモーションの戦略を提起した。第二に、産業や(生活)文化等について八戸市のイメージを検討した。第三に、新たな都市イメージを提起し、研究テーマに関する「提言」を行った。

<参考文献>

河井孝仁『シティプロモーション 地域の魅力を創る仕事』東京法令出版、2009年12月

浜松市『平成25年度浜松市シティプロモーション推進方針』2013年5月

(一財)建設業情報管理センター・(一財)建設業技術者センター：「地域建設産業のあり方検討委員会（青森県）」報告書、2013年5月

八戸市：「八戸市建設業等新聞や進出調査報告書」、2010年3月

八戸市：「八戸市橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画」、2011年4月

国土交通省：「社会資本の維持管理・更新に関し当面講ずべき措置」、2013年3月21日

青森県：「青森県橋梁長寿命化修繕計画 10箇年計画」、2012年5月

八戸市『八戸市観光基本計画』1999年4月

＜参考資料＞

・八戸市観光基本計画＜抜粋＞

八戸市観光基本計画

～ “ホッと” 北の八戸プラン～

平成 11 年 4 月

八 戸 市

第4章 八戸市及び周辺観光の現状

4-1. 主要な観光資源

(1) 八戸地域の観光資源及びその評価

八戸市内の観光資源、あるいは観光資源としてのポテンシャルを有するものの詳細は、後述するが、以下、(財)日本交通公社が平成9年度に実施した「第2次 青森県観光総合評価調査」から、八戸市内の観光資源の特徴をまとめる。

これによると、八戸圏域（上十三地域、三八地域、十和田湖町）は、八戸市の蕨島を除けば、広域的に観光客を誘致しうる資源に乏しく、地域全体としては主に県内および岩手県北部（盛岡周辺以北）に市場は限られるとされている。それだけに、現状のまま推移すれば、新幹線八戸開業をみても、当地域は通過観光圏と化す恐れもあると言える。

表4-1. 観光資源の評価（青森市、弘前市、八戸市）

市町村名	特A・A級	B級	C級	資源数
青 森 市	八甲田山 田茂荒原 八甲田の樹氷 八甲田山の紅葉・新緑 ねぶた祭り（特A） 三内丸山遺跡	堂野平野 田代平 田代平原 城ヶ倉溪谷 青森県立郷土館 坂方志功記念館 渡虫水族館 八甲田丸 ねぶたの里 アスパム 八甲田の原生植物	地蔵沼とまんじゅうふかし 幸福陸軍基地（八甲田山雪中行軍資料館） 神知鳥神社 昭和太夫（青龍寺） 合樽公園 青森駅前魚市場 青森冬まつり 残虫花火大会 雪中行軍銅像 雄古館 青森市森林博物館	28
弘 前 市	弘前城の桜 弘前城 ねぶた祭り	長勝寺（澤林樹） 義勝院（五重塔） 藤田記念庭園 アップルロード・りんご園 弘前城桜祭り 雪灯籠まつり 弘前市立観光館・文化施設群 津軽ねぶた村	青森銀行記念館 石橋家住宅 弘前城秋まつり 弘前市植物園	15
八 戸 市	蕨島のウミネコ	権左海岸 御引八幡宮 八戸三社大祭 八戸えんぶり	黒川渡詩・縄文資料館 新羅神社 八戸藩の館内景観 陸奥横手駅前新市 騎馬打毬 八戸市水産科学館 堀城の広場	13

（出典：第2次 青森県観光総合評価調査、平成10年3月、(財)日本交通公社）

八戸市の観光資源については、

- ◇「〜リアス海岸沿いの中山間地域における海路ネットワークを活用した活性化施策の推進調査〜」、平成10年3月、運輸省第二港湾建設局釜石港湾工事事務所」
の調査結果を基に八戸市観光資源の詳細については、以下の分類に従い、
- ◇（社）青森県観光連盟「96 青森県観光要覧」
- ◇八戸市総務部情報システム課「八戸市ホームページ」
等の情報を加え整理した。

◇A：八戸市の自慢

◇B：施 設

- B-1. スポーツ・レクリエーション施設
- B-2. 産業見学施設
- B-3. その他特色ある施設
- B-4. 公園、広場
- B-5. 公共の宿、温泉
- B-6. 文化施設

◇C：自 然

- C-1. その他の自然資源
- C-2. 景勝地
- C-3. 昆虫・動物・植物

◇D：文 化

- D-1. 祭り、イベント
- D-2. 観光体験
- D-3. 作品の舞台
- D-4. 出版物
- D-5. 食
- D-6. 人物・団体
- D-7. 店舗、商業施設
- D-8. 特産品

◇E：歴 史

- E-1. 民話、伝説
- E-2. 伝統芸能、伝統技術
- E-3. 歴史上の事件
- E-4. 歴史上の人物
- E-5. 歴史的建造物、遺跡

◇A：八戸市の自慢

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
わが市町村自慢		いか		水揚げ日本一
わが市町村自慢		蕎麥		生産、低価格、日本一
わが市町村自慢		上質紙	三菱製紙八戸工場	三菱製紙八戸工場
わが市町村自慢		八戸共通商品券の発行高日本一	市内	全国約 500 の発行団体の中で、八戸共通商品券 H4 ～ H8 まで 5 年連続発行高日本一。H8 年度の発行高は 7 億円余。
わが市町村自慢		イカの水揚げ高日本一	八戸漁港	近海ものから海外（ペルー、コスタリカ他）ものを含めイカの水揚げ高は日本一。
わが市町村自慢		八幡馬	市内	南部八戸地方は古くから馬産地として置かれており、多くの名馬を排出している。八幡馬は人々と馬との深い付き合いから生まれ、土産品として好評な民芸品である。三春駒、木の下駒と共に日本三駒のひとつとされている。
わが市町村自慢		加賀美流騎馬打毬	新羅神社	八戸三社大祭の中目（8月2日）に長者山新羅神社の馬場で、古式ゆかしく行われる打毬は八戸藩 8 代藩主、南部信真公が文政 10 年（1827）藩御家流加賀美流馬術の騎射八道のひとつとして創設したものであり、この種の打毬は宮内庁と山形県にしか残っていない。
わが市町村自慢		鶴島のウミネコ	鶴島	国の天然記念物で、最盛期には約 3 ～ 4 万羽を越える。

◇B：施 設

B-1. スポーツ・レクリエーション施設

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	スポーツレクリエーション施設	八戸屋内トレーニングセンター	河原木	特殊屋根構造（ドーム型）施設で、通年利用。特に冬期間において、土に親しめる体育施設。
施設	スポーツレクリエーション施設	南部山麓康運動公園	河原木	温泉水プール、体育館、ジョギングコース等を備えた総合公園で 1 年を通じ利用されている。
施設	スポーツレクリエーション施設	新井田インドアリンク	新井田公園	アイスホッケーリンク 1745 平方メートル、観覧席が 2046 席ある、多目的運動広場や、テニスコートなどもある。
施設	スポーツレクリエーション施設	長根公園	長根公園	スケートリンク、プールなどがあるこのリンクからスピード、アイスホッケーの世界的プレイヤーが生まれている。過去 8 回の国体冬季大会が開催され全国的に知られている。

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	スポーツレクリエーション施設	八戸公園（植物園・こどもの国）	十日市	緑の相談所及び樹木の見本園によって構成された「植物公園」と遊具施設を備えた「こどもの国」もつのゾーンからなる当市の総合公園で、緑の名所となっている。

B-2. 産業見学施設

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	産業見学施設	合同酒造（株）八戸工場	城下	焼酎、添加用アルコール
施設	産業見学施設	マルコ水産（株）	稲巻	冷凍製品・水産加工品。
施設	産業見学施設	三菱製紙（株）八戸工場	河原木	パルプ、紙
施設	産業見学施設	太平洋金属（株）八戸製造所	河原木	フェロニッケル、銅塊、銅片。
施設	産業見学施設	八戸製錬（株）八戸製錬所	河原木	鉛、亜鉛、硫酸。
施設	産業見学施設	東北電力（株）八戸火力発電所	河原木	電気。
施設	産業見学施設	八幡馬製造合資会社	沼館	八幡馬。
施設	産業見学施設	第1魚市場	鮫町	鮮魚、塩、冷凍魚、水揚げ、セリ。
施設	産業見学施設	第2魚市場	江陽	鮮魚、塩、冷凍魚、水揚げ、セリ。
施設	産業見学施設	第3魚市場	白根	鮮魚、塩、冷凍魚、水揚げ、セリ。
施設	産業見学施設	高岡鉄鋳造（株）	沼館	ベースメタル、銅塊、金片。
施設	産業見学施設	日東ユニテック（株）	江陽	高度化成。
施設	産業見学施設	日東石膏ボード（株）	江陽	石膏ボード、石膏プラスター。
施設	産業見学施設	東新鋼業（株）八戸工場	河原木	線材、ワイヤー。

B-3. その他特色ある施設等

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	その他特色ある施設	青森県立少年自然の家		少年を自然に親しませ、自然の中での集団生活を通じて、その情操や社会性を豊かにし、心身を鍛錬し、健全な少年の育成を図る社会教育施設。

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	その他特色ある施設	八戸総合食品センター	河原木	朝収穫されたばかりの生鮮野菜から八戸産で水揚げされたばかりの魚介類まで揃っている 1,600 台収容の駐車場も完備。
施設	その他特色ある施設	陸奥港駅前朝市	陸奥港駅前市場及び道路沿	JR八戸陸奥港駅前に並ぶ魚菜市場。八戸の台所に相応しく、早朝夜が明けぬ内から活動が始まる。
施設	その他特色ある施設	片町の朝市	龍治町	市内中心部に近い場所であり、市内及び近郊近在から農家、魚家の人々が集まり露天を並べる。とても安い朝市。
施設	その他特色ある施設	かっちゅの朝市	JR八戸駅前	八戸周辺から農家の「かっちゅ」たちが集まって販売する。とても安い朝市。
施設	その他特色ある施設	養日曜朝市	漁町	日曜日に定期的に開かれる朝市で、魚介類を中心に、野菜、菓子、花きなど幅広く集まり露天を開いている。
施設	その他特色ある施設	朝市	三八城公園	三八城神社境内で春から秋にかけて日曜日に開かれる朝市。

B-4. 公園、広場

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	公園、広場	東運動公園	旗高台	夜間照明付きの野球場・テニスコートや、自転車競技場、全天候型陸上競技場などがある。
施設	公園、広場	種差キャンプ場	種差海岸	天然の芝生が敷き詰められたキャンプ場。付近で、釣りや海水浴が楽しめる。

B-5. 公共の宿、温泉

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	公共の宿、温泉	はちのへハイツ	紋町	太平牧場に隣接する静かな松林の宿泊施設。眼下に太平洋、三陸の幸も最高。
施設	公共の宿、温泉	青森厚生年金休暇センター	八戸 IC より 1km	八戸港や島島を一望する客室や全天候型テニスコート、ゴルフ練習場。1998.4 月オープン天然温泉がある。

B-6. 文化施設

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
施設	文化施設	八戸市博物館	根城	昭和 58 年にオープンした総合博物館。考古展示コーナー、歴史展示コーナー、民俗展示コーナー、無形資料展示コーナーがある
施設	文化施設	八戸市本屋科学館 T1111	鮎町	立体映像や音響を駆使した展示。雄大な太平洋とウミホコが舞う八戸港を眺望しながら、おいしい郷土料理が楽しめる。
施設	文化施設	児童科学館プラネ タリウム	根城	ドーム直径 12m のプラネタリウムと天文台がメインで、第 2 土曜日に限り夜も公開されている。
施設	文化施設	八戸市美術館	番町	昭和 61 年に開館した県内第 1 号の美術館。「今般コレクション」など 1329 点が所蔵されている
施設	文化施設	八戸市縄文学習館	島川	縄文学習館。重要文化財 633 点を展示する島川考古館、歴史民俗資料館などがある。

◇C: 自 然

C-1. その他の自然資源

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
自然	その他の自然資源	八戸イカつり体験 ツアー	八戸沖近海 八戸市新渡三丁目みなと南市ウォッサン駐車場集合	八戸市を代表する海の幸、イカを自分の手で釣ることができる。朝 8 時に太平洋へ出船して、魚群探知機でイカの群れを探し当てると仕掛けを海に投げ下ろし、参加者全員で釣り上げていく。
自然	その他の自然資源	新井田川沿い	新井田川沿い	春は桜が咲き、景色が良い。橋が沢山あり、走る距離も選べる。
自然	その他の自然資源	金沢海岸	金沢	サーフィンやボディボードをする若者で賑わっている。
自然	その他の自然資源	馬淵川沿い	馬淵川沿い	河川敷には、ゴルフ場・野球場等、緑がたくさんあり、景色を楽しみながら走る事ができる。
自然	その他の自然資源	白浜海水浴場	種差海岸	夏は絶好のレクリエーション地
自然	その他の自然資源	ジョギング 長根 運動公園	長根公園	スケート場、野球場、体育館、陸上競技場、武道館などの設備を誇る大運動公園。
自然	その他の自然資源	不習岳	南へ 21km 三戸郡南郷村	市民の森。標高 375m、面積 97ha で、自然探求の学習の場として利用される。保健休養と野外レクリエーションの場として、キャンプ、ハイキングなどが楽しめる。

C-2. 景勝地

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
自然	景勝地	種差天然芝生地	種差海岸	天然の芝生が波打ち際まである。一角に「種差キャンプ場」がある。
自然	景勝地	龍宅崎展望台	種差海岸	突き出た岬の頂下には太平洋。ここから、種差キャンプ場まで、約 5.2km の遊歩道が続く。
自然	景勝地	レーダー基地サイ ド	美保野	運輸省のレーダー基地をすぎた所が八戸を見渡せる。

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
自然	景勝地	鰐鼻公園	八戸市 奥町	八戸大橋・シーガルブリッジ等のライトアップされた橋と共に整備されつつも昔ながらの漁船が行来したり。中心部等の景観も素晴らしい。
自然	景勝地	鰐上岳展望台	鰐上岳	夏の夜のイカ釣り船の漁火の夜景。
自然	景勝地	三菱製紙環境	三菱製紙付近	南方正から八戸の夜景を見ることができる。
自然	景勝地	種差海岸	種差海岸	八戸のシーサイドリゾート観町を起点として約 12km に伸びる海岸線でこの地方独特の海岸植物が咲く。国の名勝地及び、県立自然公園に指定。
自然	景勝地	産の松原	種差海岸	林道の小道からは奇岩怪石の絶景が望まれる。約 400 種といわれる海岸植物が目を楽しませてくれる。

C-3. 昆虫・動物・植物

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
自然	昆虫、動物、植物	鰐島	鰐島	ウミネコの繁殖地として天然記念物に指定されている。4 月の第 3 日曜日は鰐干狩りとともに鰐嶋神社の祭礼を行う。
自然	昆虫、動物、植物	ホタルの里づくり	白根南地区（鰐助川）	白根南公民館協力会、ボランティア参加の地域住民ら約 40 人が「ホタルの里づくり」推進委員会を結成しカワニナとホタルの飼育観察に取り組んでいる。その結果、すでに絶滅したものと判定されていたホタルの幼虫が平成 8 年に 1800 尾確認され、大きな反響をよんでいる。
自然	昆虫、動物、植物	南限・北限の植物群の宝庫	鰐島～種差海岸	鰐島から白根、種差海岸一帯は、海岸植物群の宝庫で多彩な植物が群生している。理由として、八戸市が植物の南限・北限の境となっており、両方の植物が混在している珍しい地域である。
自然	昆虫、動物、植物	市川工業団地内貯水池	八戸市 市川町	ザリガニが群生する池。

◇D：文 化

D-1. 祭り、イベント

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	祭り、イベント	はちのへ春まつり	長根公園・八戸公園	市民と花と音楽の祭り。緑化まつり。
文化	祭り、イベント	八戸七夕まつり	市街地	7月中旬、七夕飾り付けコンクール。流しおしどり。
文化	祭り、イベント	八戸三社大祭	市街地	8/1～3 おがみ神社、新羅神社、神明宮神輿と山車の合同祭礼。日本一の山車まつりとして見る人を驚かす。
文化	祭り、イベント	加賀美流騎馬打毬	長官山新羅神社	8/2 南部御家流騎射八道の一つ。藩政時代から伝承されているもので、現在全国でも宮内庁、山形市と当市でしか行われていない。青森県無形民俗文化財に指定されている。
文化	祭り、イベント	はちのへ菊まつり	八戸公園	10月下旬から11月上旬。菊人形、菊花の飾り付け。
文化	祭り、イベント	藤鳴まつり	飯町	4月第3日曜日。藤鳴神社祭礼。蘭干狩りなど。
文化	祭り、イベント	八戸えんぶり	長官山を中心に市内全域	2/17～20に開催。豊年祈願祭である。“えんぶり”という名は、かつてこの地方で用いられていた地ならし用の農具である「えぶり」を手に持って舞ったので“えんぶり”と呼ばれるようになった。
文化	祭り、イベント	種差観光まつり	種差海岸芝生地内	7月第2日曜日。風上げ大会・民族ショー他。
文化	祭り、イベント	はちのへ港まつり	浜通り地区	7月下旬。航海安全・大漁祈願のため4神社のみこしの海上渡御や祈願祭。最終日に、花火大会が開催される。
文化	祭り、イベント	あいしてる八戸食を考える会	市内ホテル	年に2～3回。市内ホテルで開催されているが、「ワインとチーズ」「日本酒と塩」「正油と豆腐」「国産米と輸入米」など毎回テーマが変わる。4000円会費おみやげ付きが好評。
文化	祭り、イベント	八戸市民大学講座	八戸市公民館・公会堂	昭和45年開設以来、今年で28回目を迎える。伝統のある市民大学講座です。市民の皆様に幅広い学習機会を提供するために各界の著名人をお迎えし、年間31講義開催しています。
文化	祭り、イベント	はちのへ生涯学習フェア	八戸市公民館	生涯学習に関して市民の理解を深め、一人ひとりが継続的に学習しようという意欲を喚起するため、記念講演、体験学習、公民館芸術発表会イベントを開催している。
文化	祭り、イベント	史跡榎城まつり	史跡榎城の広場	榎城は、1334年（建武元年）、南部師行により築城されたと伝えられ、八戸発祥の地ともいわれている。昭和16年に国史跡の指定を受け、昭和53年から約10年間続いた発掘調査を基に復元整備を行い、平成6年に「八戸市史跡榎城の広場」としてオープン。

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	祭り、イベント	縄文まつり	八戸市縄文学習館	昭和 32 年に国史跡の指定をうけた 是川遺跡及び市内の縄文遺跡の保護 ・活用を目的として、平成 7 年に 「八戸縄文保存協会」が設立され、 同会が主催となり、是川縄文の里 （八戸縄文学習館周辺）を舞台とし て開催している。
文化	祭り、イベント	音と光のおまつり 広場	八戸市庁舎前	八戸三社大祭の中日に毎年開催され ているステージ・企画・緑日広場・ ちびっこ広場、特産品等があり、本 年で 20 回目。

D-2. 観光体験

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	観光体験	八幡馬製造（株）	旧館	八幡馬給付け。
文化	観光体験	田村源吉	鮫町	地引き綱引き。
文化	観光体験	船英太郎	鮫町	地引き綱引き。（小、中学生対象）

D-3. 作品の舞台

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	作品の舞台	さだまさし「寒山 子」	三八城公園	三八城公園から城下方面を臨してい ると聞いている。
文化	作品の舞台	八戸の魚市場	八戸港	映画・CM等によく見る。
文化	作品の舞台	種差海岸	種差海岸	海岸線ギリギリまで、芝生が育って いる。映画のシーンでよく使われて いる。
文化	作品の舞台	日本画「道」の舞 台	大須賀海岸	日本画家東山魁夷の代表作「道」の 舞台。

D-4. 出版物

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	出版物	うみねこ	六日町	タウン誌の中では、一番古く知名度 も高い。八戸市の百選店の案内は市 街図入りでわかりやすい。雑誌の内 容は随筆と時評であるが、著者は市 内の医師、料理研究家、美容師等の 有名人であるが、身近な方々の随筆 で定着した読者を持つ。
文化	出版物	ぶれいがいど東北	根城	市内の商店街の紹介は勿論のこと、 紙面の内容は随想、エッセイ、旅、 映画あれこれと、幅広いジャンルで 読者を引きつける。
文化	出版物	八戸文化通信	八戸文化通信社	政治・経済・文化の総合情報誌
文化	出版物	Amuse	新井田	八戸市地域の情報を発信する月刊誌 である。その内容は、飲食店の紹 介、映画案内、ミュージック、芸 能、スポーツなど多岐にわたる情報 が盛り沢山つまっており1ページ開 いたら最後まで見たくなる。

D-5. 食

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	食	松田屋	一番町	ホルモン焼きが最高・天丼（えび）がすごい。
文化	食	そばかけ		そばを三角形に切ったもの。
文化	食	みそ・しょうゆ		昆布ようかんなど。
文化	食	菊ずし		
文化	食	南部八戸せんべい		軽く香ばしい風味。米粉を練って薄くのばし、焼いたせんべい。
文化	食	八戸の地酒	八戸酒造二北酒造 八戸酒館	陸奥男山、みちのく、桃川、八幡など。
文化	食	水産加工品・珍味		イカの塩辛、練りウニなど。
文化	食	イカ		水揚げ高は、日本の約 3 割を占める。全国第1位。
文化	食	むし菊		食用菊で「阿房宮」と呼ばれている。菊を型に入れて蒸した後、乾燥させたもので、長く保存できるように作られている。
文化	食	干し菊	柏崎	食用菊の花弁を蒸して乾燥したもので、南部地方の特産品。「蒸し菊」「菊のり」とも言われてきた。
文化	食	いちご煮		ウニとアワビのおいしい物。
文化	食	ふるさと小包便 いちご煮餅	飯町	ウニ、アワビを風味豊かな醤油に仕上げた「いちご煮」を手軽に味わえる。
文化	食	煮き（すき）こんぶ	柏崎	飯沼海岸の岩礁地帯に群生する一年生こんぶを細切りにし、湯通し後、箱の枠に敷いて乾燥した物。
文化	食	燗鍋の燗えんぶり 漬け	川町	日本近海の新鮮なスルメイカを使ったもろみ漬け、豆板燗漬け、ワイン漬けの3種があり、低塩、低脂肪と健康にも配慮されている。
文化	食	八戸の菓子		八戸せんべいや菓子まんじゅうなど。
文化	食	ビストロ TOM	長橋町	
文化	食	雑煮食堂	雑煮海岸	うに丼、燗ラーメン他、新鮮な海の幸をたくさん出してくれる。
文化	食	湯乃屋	岩倉町	メニューの豊富な居酒屋でネーミングがとてもユニークである。
文化	食	コーザン醤油	常楽町	昔ながらの製法。
文化	食	とんかつざい六	八戸市	作法に厳しい主人がいる。製法が手軽に理解できる。（理解しないと食べられない）
文化	食	居酒屋 弁慶	八戸市 長橋町	サガ（メヌケ）味噌焼きが食べられる（安い）。
文化	食	タジラ汁	南部地域	ダイコン、ニンジン、ゴボウ、ネギに塩タジラを入れて煮る。この料理は昔、冬場の家庭料理として欠かせないものであった。現在は焼酎禁止により別の料理になりつつある。
文化	食	松崎食堂（ドライブイン）	市川町・羅市町	3 店舗のドライブインを営業し、羅市町から新鮮なウニを出してくれる。
文化	食	かじゅらほ	根城	串焼きがすごい・店主が画家。
文化	食	漁港ストア	八戸市	月に一回、全品半額の日がある。（その日は誰かわからない）

D-6. 人物・団体

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	人物、団体	原 信子	十八日町	大正から昭和にかけて国際的なオペラ歌手。
文化	人物、団体	羽仁もと子	長横町	自由学園を創設し、キリスト教に基づく教育で実践した教育家。映画監督。 羽仁進は孫。
文化	人物、団体	前原寅吉	番町	日本で最初にハレー彗星を観測した天文学者と言われている。
文化	人物、団体	佐々木幸南	番町	日本書道界の重鎮。
文化	人物、団体	松下正寿	番町	国際政治学表 元立教大学総長。
文化	人物、団体	上杉 修	番町	郷土史家で、安藤昌益の発掘と郷土資料の保存に生涯を捧げる。
文化	人物、団体	亀徳 しづ	番町	番町で近代医学を取り入れた第1号の助産婦。
文化	人物、団体	小国英雄		脚本家。三船敏郎「七人の侍」等を手掛けた。
文化	人物、団体	小井川義太郎	ヤグラ横町	柳田国男とともに、日本民俗学の確立に貢献。
文化	人物、団体	松林秀子	ヤグラ横町	川端康成の嫁人。
文化	人物、団体	MTC21	八戸市	十和田湖一周ウォーキングやシルクロード歩道を目指している。
文化	人物、団体	三浦哲郎	三日町	芥川賞作家三浦哲郎生誕の地。
文化	人物、団体	北村小松	長横町	シナリオ、小説家として有名。
文化	人物、団体	浦山太吉	十三日町	八戸近代港湾開発の父。
文化	人物、団体	ラビアの佐藤隆昌	八戸市	普段は普通のサラリーマンなのだが2カ月に1回落語の講演会をやっている。

D-7. 店舗、商業施設

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	店舗、商業施設	Dee - Dee		サーフィンショップ。
文化	店舗、商業施設	美木貿易		輸入家具よりも三沢基地下駄家具（中古）の方がよく売れる（らしい）。
文化	店舗、商業施設	八幡屋	小中野	三味線の専門店。
文化	店舗、商業施設	リップ・カレント	第2桜ヶ丘	サーフィンショップ。
文化	店舗、商業施設	砂っ子温泉	新井田	砂風呂に入れる。

D-8. 特産品

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
文化	特産品	「えんぶり」のえぶり		古くから伝わる民芸品。この地方で用いられていた地ならし用の農具のこと。えんぶりと呼ばれる祭に使われる。
文化	特産品	ウニっ子（岩谷水産）	鉾町	地ウニ100%使用のウニごはんの素
文化	特産品	ウニ丼（岩谷水産）	鉾町	お湯やレンジで温めるだけで簡単にウニ丼ができるウニっ子同様 100%地ウニを使用している。
文化	特産品	南部漆器		古くから伝わる民芸品。南部氏が城を構えたころにはじまるという古い伝統のもの。
文化	特産品	八幡馬		日本三駒の一つ。昔、八幡宮の大祭に奉納された伝統工芸。

◇E：歴 史
E-1. 民話、伝説

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
歴史	民話、伝説	ふるさと読本 (種市の民話・伝説から)	種市	メドツの話/三人兄弟の話/悪岩のうずこ穴と二つ森のドンコ穴の話/ホーホケキョの鳥の鳴き声の話/赤石の話/フタロウが墓でこないわけの話/有家川の昔話/地蔵マツカの話/有家の観音の話/辰の口の話/龍の橋の話/若宮のお稲穂/タヌキの提灯の話/山の神様の線とり/コバの木の話/地沢の大滝の話/犬男丸の話/二十一物語の話/有家郷物語の話
歴史	民話、伝説	ふるさと読本 —種市関書から—	種市	いづころから人がいたかの話/ひかしのかとたね—の古文書のころの話/千人塚をめぐる世の中の話/龍牛の話/種市の権現さまたちの話/神様のけんかの話/松屋敷の座敷わらしの話/ゆうれい舟の話/秋道打ちの名人も狐にだまされた話/狐のお産によばれた話/タンサーに霧がなく話/脱びり娘の話/長石塚の話/小予内のよばり石の話/ガンドウ屋敷の話/高松の耳神様の話/中野の白鹿の話/大炭川の主の話/火見橋の火柱をみた話/がくらめしの話/巻と英語の話/地名覚帳伝
歴史	民話、伝説	大畑の昔ばなし [1]	大畑	藤五郎きつね(田向)/片目の蛇(妙)/雷伊穴と層上岳のつつじ(松鶴)/藤やき長者の(是川)/八の太郎(十日市)/山の背くらべ(階上岳)/岩淵のかんこ(新井田)/八幡川原の一太郎(新井田)
歴史	民話、伝説	青森のむかし話	八戸市	タラつけサバ/ソーロリ、ソーロリの話/マンザとロダ/ぼさまとくじら
歴史	民話、伝説	ふるさと民話	はちのへ・ごのへ	うすのろのタズ/カブのあなの酒/炭焼長者/ばかでも知能/スネコタンボコ/宝のこま/うそ八百の話/からやきの話/せんだんぐりげ/鬼ばばと牛方/田にし長者/いっすん太郎/かちかち山/つる女房/皿ヶ山/手っきりあねさま
歴史	民話、伝説	南部昔言葉—南部地方の民話—	南部地方	スネコタンボコ/鬼妻と小坊主/ネズミのおみやげ/サルとカニの話/無頼長者/キツネ道徳/ウスノロの「タズ」/宝のこま/ガン骨の話/狐とカワウソ/米子とぬか子/カブの穴の酒/ソバと山パト/手ぬくいキツネ/河童(メドツ)の約束/うそ八百の話/おはぐる狐/宝のふくべ/鳥の話/おサルのお地蔵様/カエルの悪戯し/魔婆と牛方①②/ムコの手帳/キツネの釜ゆで/せんだん栗毛/かくれ里/からやきの話/袋のキツネ/額とぼさま/化け物の話/熊の腹/地蔵の善人/ペゴの尾っぱの話
歴史	民話、伝説	青森の伝説	八戸市	石橋の地蔵/市子林/八戸一のキツネ/狐のつく名まえ

E-2. 伝統芸能、伝統技術

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
歴史	伝統芸能、伝統技術	徒打鼓		騎馬打鼓から派生したものと伝えられ、徒歩で行う打鼓。
歴史	伝統芸能、伝統技術	虎舞		本来、虎の霊力を借りて、悪魔払いや火伏せを行う舞で、江戸末期頃から八戸地方に伝承されているもの。現在は、八戸三社大祭の行列にも参加している。
歴史	伝統芸能、伝統技術	恵比寿舞		大漁を祈願する舞。恵比寿様が鯛を釣る所作を演ずるもので、滑稽な仕草が人々に人気がある。現在は、えんぶりの演目の合間に行われている。
歴史	伝統芸能、伝統技術	大黒舞		祝い事がある時、各家々をまわって門付をする祝儀芸能であるが、現在では、えんぶりの演目の合間に行われている。打ち出の小槌と扇を持って舞う。
歴史	伝統芸能、伝統技術	加賀美流騎馬打鼓		八戸三社大祭の中日に行う。騎射八道の一つでこの種の打鼓は宮内庁と山形市にしか残っていない。
歴史	伝統芸能、伝統技術	鯨の神楽		墓前にて舞う墓舞子。

E-3. 歴史上の人物（明治以前）

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
歴史	歴史上の人物	南部三郎光行		甲州南部の庄に住んでいた南部三郎光行が、鎌倉将軍足利氏の奥州征伐に参加。藤原氏の討伐に手柄をたて将軍から領地として「奥州藤原郡」を賜った。これが南部の国の始まりとなる。
歴史	歴史上の人物	南部師行	根城	建武元年（1334）、甲斐の国の南部師行が、根城に城を構え、戦乱の北東北を納めた。五代に渡り南朝に尽くし、八戸地方の基礎を築いた。
歴史	歴史上の人物	南部直房		南部直房は、三戸南部の後継。盛岡藩主南部重直の甥で、重直の死後、幕府より2万石を与えられ、八戸発展の新たな礎を築く。
歴史	歴史上の人物	安藤昌基	ヤグラ横町	マルクス、レーニンよりも早く、世界で初めて、原始共産制を唱えた江戸中期の思想家で八戸の町医。著書「自然真常道」。

E-4. 歴史的建造物、遺跡

分類1	分類2	名 称	場 所	特色コメント
歴史	歴史的建造物、遺跡	八戸南宮家墓所	南宗寺内（隠岐）	八戸藩創設時の隠代藩主の家族の墓地で南宗寺の境内の一角にある。県史跡。
歴史	歴史的建造物、遺跡	清水寺観音堂	清水寺（是川）	県内最古の木造建築で得宗様式で、中世的仏堂として東北地方北部の貴重な遺構となっている。
歴史	歴史的建造物、遺跡	是川遺跡	是川	「ミネルヴァ論争」の舞台にもなった、学史的な遺跡である。「縄文の里」として是川遺跡文化学習ゾーンを設け、活用を図っている。
歴史	歴史的建造物、遺跡	鹿島沢古墳群	沢里	本州最北端の古墳で本州の北端にも古墳文化が伝播していたことを示す、大変な発見だった。
歴史	歴史的建造物、遺跡	丹後平古墳	八戸ニュータウン内	奈良時代の葬制を知る上で重要な遺跡である。全国に一点しか出土例がない物もある。
歴史	歴史的建造物、遺跡	月溪山南宗寺山門	南宗寺（隠岐）	南宗寺内にあり 1739 年に建造された門で、県重宝に指定されている。
歴史	歴史的建造物、遺跡	徳引八幡宮	八幡	国宝「赤糸織鉦鉦」など、他にも数多くの宝物が所蔵され、文化財の指定を受けている。
歴史	歴史的建造物、遺跡	史跡・根城の広場	根城	北奥羽を治める中心的な役割を担っていた城、発掘調査の成果に基づき鉦全体を復元。
歴史	歴史的建造物、遺跡	八戸城角御殿表門	内丸	八戸藩政時代の象徴といえる建物で「櫓門」と呼ばれる構造形式でこの形式では全国的にも最大級の大きさを誇っている。県重宝。
歴史	歴史的建造物、遺跡	刈泉閣	新井田	山門・庭園がある。「鶴元万葉等供養塔」があり当時の悲愴な状況を記している。「大賀ハス」がある事でも有名。
歴史	歴史的建造物、遺跡	新井田城跡	新井田大塚	新井田川に臨んだ平山城の跡地。
歴史	歴史的建造物、遺跡	風張遺跡	是川	縄文時代後期の全国的にも重要な遺跡の一つ。日本最古の炭化した米が発見された。

〇 〇 〇
八戸市観光基本計画
平成11年4月

〇 〇
編集：八戸市観光課
〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1
TEL(0178)43-2111 (代表)

〇
制作協力：(株)地域開発研究所 企画部 青田／橋本
〒110-0015 東京都台東区東上野2-7-6 東上野T・Iビル
TEL(03)3831-2917

【JET Questionnaire】 What do you think about Hachinohe?

Welcome to JAPAN and welcome to HACHINOHE! How do you like it here? There are tons of fun things to do and great foods to try in our city, but did you know anything about Hachinohe city before you arrived? Apart from information you may have received directly from CLAIR, the Hachinohe city office, or your predecessor in regards to your current JET Programme placement, what kind of English language information were you able to find regarding Hachinohe before moving here?

As a part of the 'Hachinohe City Promotion Team', under the direct control of the mayor, our group has been discussing ways in which the city could better allow for more foreigners to find out about Hachinohe and what our city has to offer. We are specifically concerned with what 'image' (if any) foreigners may have of Hachinohe, as well as the city's accessibility to potential foreign visitors, in terms of its appeal for tourism and sightseeing. However, before we take any action, we want to hear from you! The more opinions and ideas we can present to the mayor of Hachinohe and to city officials, the better a place Hachinohe can become for foreigners! This is a questionnaire concerning these issues. Thank you very much in advance for your candid responses and your cooperation.

1. If you were talking to someone from your home country, how would you describe Hachinohe city, now having lived here for a while yourself?

2. What was your image, if any, of Hachinohe before you arrived here?

<外国人アンケート (2/3) >

3a.	Had you ever heard of Hachinohe city before your current JET program placement? (not including CLAIR, the Hachinohe city office, or your JET predecessor)
A Yes. B No.	
3b.	For those who answered yes to question number 3a above, from where or whom did you hear about Hachinohe? What did you hear?

4a.	Had you ever heard of Aomori prefecture before your current JET program placement? (not including CLAIR, the Hachinohe city office, or your JET predecessor)
A Yes. B No.	
4b.	For those who answered yes to question number 4a above, from where or whom did you hear about Aomori? What did you hear?

5.	Do you think there is anything 'amazing' about Hachinohe? If so, what? (Ex. food, place, activity, people, etc.) You may list as many things as you like.

<外国人アンケート (3/3) >

6. Is there anything that you feel is lacking in Hachinohe? (This could be something you personally want, something the city could improve on, or something the city doesn't offer in general.)

7. If you have any other comments regarding the availability of English language information on Hachinohe, or about Hachinohe's image, appeal, and/or accessibility to foreigners, please write them here.

Thank you for your time. If it would be alright for us to contact you directly at a later date to talk about your responses in more detail, please write your name and E-mail address below.
Once again, THANK YOU VERY MUCH! We really appreciate your cooperation.

Name:

E-mail address:

[Contact] Gregory Anthony
Hachinohe Gakuin University, Business Department
Mobile: 080- / Email: @hachinohe-u.ac.jp

＜八戸在住外国語指導助手へアンケート結果＞

平成 25 年 8 月に来日したばかりの外国語指導助手（ALT）に八戸についてのアンケートに答えてもらった。

ALT コメント 八戸について良い点：

- ・いろいろな特色がある。またアクティビティや、イベント、ナイススポットがたくさんある。
- ・海、山、自然にも近い。
- ・ほどよく都会で、ほどよく田舎で住みやすい。
- ・東京とは違い、自然に囲まれている。
- ・都市並みに便利、かつ美しい景色もある。
- ・八戸市の人たちは親切。
- ・リラックスできる公園がある。
- ・小さい街だが、いろいろなアクティビティができる。
- ・八戸花火大会は最高。
- ・海岸はきれいでゴージャス。
- ・ショッピングモールと温泉が充実。

ALT コメント 八戸について悪い点：

- ・八戸に来る前は、八戸の名前すら知らなかった。（アンケート回答者の 8 割）
⇒英語で八戸の名前をもっと発信すべき
- ・英語で八戸の情報が得られなかった。漁業と産業しかない街だと思っていた。
八戸に来て、それだけではないと安心した。（アンケート回答者の 7 割）
⇒ネット上で、八戸の情報を発信すべき
- ・バスをよく使うが、ウェブで、時刻表など、英語の情報がなくて困る。
- ・本数が少なく不便で最終も早い。
- ・バス移動は不便（英語の情報が無い、行きたい所にバスがなく、タクシーは高いので、歩くしかない）
- ・ウェブでもバス停でもバス情報が英語で得られない。また、時刻表が Google Maps に登録されていないようで、行き先バス路線の検索ができない。
⇒今のままでは、外国人観光客がバスで八戸観光は難しい？！
- ・八戸のホテルのウェブサイトが英語がない。ホテルの情報や宿泊予約ができない。
- ・中心街は活気がなく、古い。古い建物はリニューアルすべき。
- ・英語で、レストランの情報や地図が必要。
- ・道にゴミ箱がない。

都市のイメージづくりと情報発信力の強化に関する研究

2014（平成 26）年 3 月 31 日発行

編集・発行 八戸市都市研究検討会

座長 小 林 眞（八戸市長）
委員 藤 田 成 隆（八戸工業大学長）
大 谷 真 樹（八戸学院大学長）
岡 田 益 男（八戸工業高等専門学校長）

<都市のイメージづくりと情報発信力の強化に関する研究プロジェクトチーム>

月 永 洋 一（八戸工業大学工学部 土木建築工学科 教授）
斎 藤 明 宏（八戸工業大学基礎教育研究センター 助教）
戸田山 みどり（八戸工業高等専門学校総合科学科 教授）
馬 渡 龍（八戸工業高等専門学校建設環境工学科 准教授）
田 中 哲（八戸学院大学ビジネス学部 教授）
グレゴリー・アンソニー（八戸学院大学ビジネス学部 講師）
関 陽 平（八戸市まちづくり文化スポーツ観光部観光課
観光物産グループ 主査）
佐 藤 彩 子（八戸市総合政策部市民連携推進課
市民協働グループ 主事）
佐 藤 啓 二（おいらせ町商工観光課 主任主査）

（事務局）

丹 羽 浩 正（八戸学院大学・八戸学院短期大学総合研究所長・教授）
浜 章 夫（八戸学院大学・八戸学院短期大学学務部情報メディア課長）
足 澤 和 浩（八戸学院大学・八戸学院短期大学学務部情報メディア課 主事）